

2013年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

12

新潟大学教育学部

ANNUAL REPORT

教育学部年報2013目次（予定）

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	4
2.1 教育学部における体験的カリキュラムの概要	
2.2 フレンドシップ実習	
2.3 入門教育実習	
2.4 研究教育実習	
2.5 学習支援ボランティア派遣事業及び関連事業	
2.6 教育実習	
2.7 介護等体験	
2.8 キャリアデザイン I, II の開講	
2.9 インターンシップ	
・ 学校インターンシップ	
・ 企業等インターンシップ	
2.10 各課程の特色ある教育活動	
2.11 中・高校生等の大学見学	
3. 就職支援	31
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年生向けキャリアガイダンス	
3.4 公務員・企業ガイダンス	
3.5 臨時教員志望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教員採用・就職活動バス支援	
3.8 教育学部就職情報ホームページ	
3.9 教職サポートルーム	
4. 学部 F D	47

5. 地域貢献	48
5.1 12年研修	
5.2 市民・教員を対象とした公開講義	
5.3 教育委員会との連携協定	
5.4 新潟大学免許法認定公開講座	
5.5 委員等就任状況	
6. 国際交流	55
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
7. 附属施設の活動	60
7.1 新潟小学校	
7.2 新潟中学校	
7.3 特別支援学校	
7.4 幼稚園	
7.5 長岡小学校	
7.6 長岡中学校	
8. 外部資金	76
8.1 科学研究費補助金	
8.2 奨学寄付金	
8.3 受託研究・受託事業	
8.4 共同研究	
9. 教員・教育研究業績	79

〔巻末資料〕

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

1. イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事項
4月	5日	新潟大学入学式, 教育学部新入生保護者懇談会
	8日	教育学部学年別ガイダンス (1年次, 3年次), 大学院教育学研究科新入生ガイダンス
	9日	教育学部学年別ガイダンス (2年次, 4年次)
	11日	第1学期開始
	13日	黎明祭
5月	2日	教採合格ガイダンス (4年次学生向け)
	8日	教員採用試験支援プログラム (小論文, 模擬授業, 面接・場面指導, 理科実験, 体育実技, 音楽実技, 美術実技, 家庭科実技) (~8/23)
	9日	教員採用試験支援プログラム (教採に向けた教職教養, 教育心理学, 特別支援教育: 全6回) (~6/6)
	16日	教員採用試験支援プログラム (教員採用検査合格者 (卒業生) による模擬授業の見学)
6月	3日	新潟大学永年勤続者表彰式
	3日	春期教育実習 (~6/14)
	20日	教育学部後援会役員会
	22日	大学院教育学研究科現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	25日	新潟大学名誉教授称号授与式
	29日	教育学部後援会理事会・総会
7月	6日	新潟市立小・中学校教員採用検査 (第1次検査) (~7/7)
	7日	新潟県公立学校教員採用検査 (第1次検査)
	13日	東京都教採バスツアー (~7/15)
	13日	教員免許状更新講習 (~11/3)
	19日	愛知県・名古屋市教採・就活バスツアー (~7/21)
	31日	第1学期定期試験 (~8/6)
8月	2日	教職12年経験者研修 (~8/23), 免許法認定公開講座 (~9/8)
	8日	新潟大学オープンキャンパス (~8/9)
	11日	夏期休業 (~9/30)
	12日	学校図書館司書教諭講習 (~8/27)
	16日	新潟市立小・中学校教員採用検査 (第2次検査) (~8/18)
	17日	新潟県公立学校教員採用検査 (第2次検査) (~8/20)
9月	4日	大学院教育学研究科入学試験
	6日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	9日	観察参加実習 (~9/13)
	18日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
	20日	秋期卒業式
	27日	全学就職総合ガイダンス
	30日	キャリア支援ガイダンス (2年次学生向け)
10月	1日	秋期入学式, 第2学期開始, 教職サポートルームOPEN
	2日	教採ガイダンス (3年次学生向け)
	19日	新潟大学Week 2013 (~10/27) ※ 新大祭, 書道パフォーマンス「いつ書くの?今で書!」, パフォーマンス「めくりめぐる, うちのまち」
	28日	秋期教育実習 (~11/8)
11月	16日	推薦入試 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試, 養護教諭特別科入学試験
	22日	就職なんでも相談会 (~12/16)
	25日	教育実習運営協議会
	26日	企業・公務員希望者向け就職対策講座
	30日	教員養成シンポジウム
12月	3日	推薦入試 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試合格者発表, 養護教諭特別科入学試験合格者発表
	7日	推薦入試 (学校教員養成課程)
	13日	東京の学校見学バスツアー支援 (~2/21)
	20日	教員採用試験支援プログラム (教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス)
	24日	冬期休業 (~1/6)
1月	7日	授業開始
	16日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	18日	大学入試センター試験 (~1/19)
	24日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	29日	教員採用試験支援プログラム (小児のアレルギー疾患 ~学校における対応について~)
2月	3日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験
	4日	第2学期定期試験 (~2/12)
	10日	推薦入試 (学校教員養成課程) 合格者発表
	12日	教員採用試験支援プログラム (教採に向けた教職教養: 全4回) (~2/20)
	13日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験合格者発表
	14日	三条市教育委員会と教育学部との連携協議会
3月	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (~2/26)
	8日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	11日	春期休業 (~3/31)
	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	13日	教育学部後援会理事会
	22日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
24日	新潟大学卒業式, 教育学部卒業祝賀会	

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《附属新潟中学校》

《附属特別支援学校》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	5	着任式, 始業式, 入学式	8	第1学期新任式, 始業式
	26	全校参観日	9	新入生歓迎会	9	入学式
			24	全国学力・学習状況調査	12	PTA常任委員会, PTA総会
			25	生徒総会	17	高等部3年生修学旅行(関西方面)~19日
				19	中学部遠足, 高等部1・2年生校外学習	
5	25	附属大運動会	11	ときわ体育祭	2	小学部遠足
	30	中条自然教室(4年)(~31)			8	生徒指導会議, 介護等体験実習①~9日
					14	第1回避難訓練
					15	介護等体験実習②~16日
				23	介護等体験実習③~24日	
				25	運動会, 入門教育実習①, PTA懇親会	
6	3	春期教育実習(~14日)	3	春期教育実習(~14日)	3	春期教育実習~14日
	7	全校角田登山	4	新潟市体育大会(~5日)	5	公開講座(親支援プログラム)
	19	全校参観日	14	完歩大会	17	高等部インターンシップ期間~7月5日
			24	演劇鑑賞教室	21	PTA講演会, 音楽鑑賞会
			27	新潟地区陸上大会(~28日)	24	学校説明会①
				25	介護等体験実習④~26日	
7	19	1学期終業式	3	新潟地区各種大会(~4日)	2	学校説明会②, 介護等体験実習⑤~3日
	22	佐渡自然教室(5年)(~24日)	11	通信陸上大会	4	中学部校内宿泊学習~5日
	30	市陸上記録会	16	全学年懇談会(~19日)	12	PTA常任委員会, 保護者救急法講習会, 懇談会
			24	1学期終業式	高等部 川岸分校との共同学習	
			25	県総合体育大会(~26日)	17	第1回学校評議員及び学校関係者評価委員会合同会議
				19	第1学期終業式	
8	2	新潟市水泳記録会	5	北信越総合体育大会(~9日)		
	28	2学期始業式	17	全国中学校体育大会(~25日)		
			20	県内附属学校園合同部会		
			27	2学期始業式		
9	9	立山自然教室(6年)(~12日)	9	2年次教育実習(~13日)	2	第2学期始業式 交通指導~4日
	9	2年次観察参加実習(~13日)	21	演劇発表会	10	県特別支援学校スポーツ大会(ビッグスワン他)
					11	第2回避難訓練(津波想定, 2次避難)
					12	中学部3年生修学旅行(東京方面~13日)
				19	小学部校外学習, 小学部3組校内宿泊学習~20日	
				25	PTA体験教室(フラダンス)	
10	3	クロスカントリーinははの森	4	新潟市総合体育大会	10	PTA奉仕作業
	19	附属ミュージアム	13	秋の教育研究発表会	18	第29回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門
	28	秋期教育実習(~11月8日)	28	秋期教育実習(~11月8日)	合同研究集会新潟大会 兼 第36回特別支援教育研究会~19日	
					23	介護等体験実習⑥~24日
				28	秋期教育実習~11月8日	
11	23	附属ミュージックステーション	10	学校説明会	7	PTA施設見学
			23	音楽のつどい	11	高等部インターンシップ期間~12月5日,
					11	介護等体験実習⑦~12日
					22	秋期教育実習事後観察
				25	入学者選考	
				29	入学許可者公示	
12	7	新1年生入学選考(10日)	2	全学年懇談会(~6日)	4	介護等体験実習⑧~5日
	20	2学期終業式	10	生徒会立会演説会	6	PTA常任委員会, 給食試食会, 学級・学部期末懇談会
			11	生徒会役員選挙	11	介護等体験実習⑨~12日
			14	入学選考検査(~15日)	20	第2学期終業式
			21	合格発表	24	冬季休業~1月7日
			24	2学期終業式		
1	8	3学期始業式	8	3学期始業式	8	第3学期始業式, 交通安全指導(~10日)
			24	冬の教育研究発表会	10	中学部PTAもちつき大会
			28	3学年進路懇談会(~30日)	14	新入生保護者説明会
					15	介護等体験⑩(~16日)
				17	高等部スキー・そり教室(ニノクス)	
				29	高等部 川岸分校との共同学習	
2	6	初等教育研究会(~7日)	4	2学年沖縄の旅(~7日)	1	すなやま祭, 高等部 川岸分校との共同学習, 同窓の集い
	19	高学年スキー授業(~20日)	20	1学年東京巡検(~21日)	7	小学部そり教室(ニノクス)
					14	中学部スキー・そり教室(ニノクス)
					20	高等部校内宿泊学習(すなやまの家 ~21日)
				26	附属三校学校保健委員会	
				28	小学部6送会, 中・高等部3送会 PTA常任委員会	
3	6	6年生を送る会	4	同窓会入会式	5	査定会, 生徒指導会議
	19	3学期終業式	7	第66回卒業証書授与式	10	第3回学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議
	20	第67回卒業証書授与式	11	公立高校一般選抜検査	18	卒業証書授与式
			14	3学期終業式	19	第3学期終業式
			25	離任式	25	離任式

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
8	着任式, 始業式, 入学式	5	着任式, 始業式, 入学式	8	1学期始業式
15	全校仲良しの会	8	入学式, 1年PTA入会式	9	入園式
17	全校学習参観日	9	2・3年PTA、学校運営説明会	19	こんにちはの会
		11	学友会入会式		
8	研究会事前打合せ	1	クラスマッチ①	29	校園合同教育研究協議会
29	教育研究協議会	13	学友会計画総会		
		23・24	都市陸上大会		
		29	教育研究協議会		
3	春期教育実習(～14日)	3	春期教育実習(～14日)	3	春期教育実習(～14)
4	初任者研修①	4・5	市内各種大会	15	家族参加日(土曜参観)
18	校園合同避難訓練	17	進路説明会	18	プール開き
20	4年サマースクール(～21日)	27・28	中越地区陸上大会	21	PTA講演会(講師:)
24	全校学習参観日(心の教育)				
27	栖吉川フェスティバル・入門期教育実習				
8	オープンスクール・学校説明会	3・4	中越地区各種大会	5	七夕会
24	1学期終業式	6	地区懇談会	17	1学期終業式
26	家庭訪問(～30日)	19	成果を語る会		
		21	中越地区吹奏楽コンクール		
		25・26	県総合体育大会		
		29・30	保護者面談		
7	親善水泳大会	7	県吹奏楽コンクール	29	2学期始業式
27	5・6年妙高自然教室(～28日)	7～9	北信越大会		
30	2学期始業式	17	全国中学校体育大会(～25日)		
		20	県内附属合同研修部会		
		25	PTA校園整備活動		
		26	抱負を語る会, 授業開始		
		31	学校説明会		
7	校園大運動会(校園合同)	7	校園大運動会	7	校園合同運動会
9	観察参加実習(～13日)	9	観察実習(～9日)	9	観察参加実習(～13日)
17	初任者研修②	26	都市新人陸上大会	13	親子バス遠足
18	避難訓練②				
19	親善陸上大会(6年)				
25	マラソン記録会				
21	願書受付開始	9・10	新人各種大会	3	園内探検
23	1～3年わくわく発見遠足	18	中間検討会	8	探検遠足
28	秋期教育実習(～11/8)	28	秋期教育実習(～11/8)	24	入園選考日(～25日)
		28	音楽発表会	28	秋期教育実習(～11月8日)
13	親善音楽会(6年)	4	市P連インディアカ大会	16	作品展
16	校内音楽会	11	進路説明会		
20	願書受付締切	15	生徒会役員選挙		
29	仲よしフェスティバル	29	学友会総会		
30	入学選考検査				
3	選考検査結果発表	3	3年三者面談(～6日)	16	餅つき
4	個別懇談(～6日)	11	クラスマッチ②	19	2学期終業式
20	2学期終業式	14	入学者選考検査(結果発表21日)		
		19	成果を語る会		
8	3学期始業式	8	抱負を語る会	9	3学期始業式
14	全校学習参観日	23・24	1年研修旅行(東京)	14	かるた大会
16	避難訓練③			29	そり遠足
17	3・4年スキー(第2回・24日)				
29	1・2年そり遠足				
6	5・6年スノースクール(～7日)	8	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
18	一日入学	12	公立高校推薦選抜検査	14	一日入園
19	学習参観(1～3年)	18	2年修学旅行沖縄(～21日)		
20	学習参観(4・5年)	28	3年生を送る会		
28	ありがとう仲良しの会				
17	3学期終業式	7	第66回卒業証書授与式	4	ありがとうの会(5歳児への感謝の会)
18	114回卒業証書授与式	11	公立高校一般選抜学力検査	13	3学期終業式
		19	終業式	14	第113回保育証書授与式
		26	離任式		

2. 特色ある教育活動

2.1 新潟大学教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要

No.	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標	実施時期、期間
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。	通年
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。	通年
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1) 佐渡市立河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3) 地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。	通年（実習は9月集中）
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度（現在の体制による実施開始年度）	(1) 附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。	9月、5日間
5	教育実習（主専攻、副専攻）	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。	春期・秋期、各2週間、総計4週間
6	研究教育実習	4年次生、大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。	通年
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める	通年
8	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。		通年
9	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。		8～1月
10	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。		通年
11	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。		通年
12	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。	通年

関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	50名	「教育実践体験研究Ⅰ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」（文部省（当時）、平成9年度開始）に連動する授業科目として設定（「教育実践体験研究」）。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	127名	「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目（教育実践研究関連科目）により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
佐渡市立河崎小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	5名	6名	「教育実践体験研究Ⅳ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2) 新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
附属学校（4校）		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計320名	「教育実習事前・事後指導」（2単位、学校教員養成課程においては必修）の一環を構成	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
附属学校園、協力校園 総計（のべ）230校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計（のべ）863名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
附属学校、協力校	特に設定しない	35名(国費留学生3人、他学部生2名、大学院生5名含む)	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」（3年次対象）および「総合教育実習」（4年次対象）を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	124校、248人(派遣要請総数)	94校、156名(大学院生7名、他学部生3名含む、新潟青陵大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位） 平成17年度より新設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成（カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」）。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。
新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	12校、45名(大学院生1名、他学部11名含む)	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計12校（牡丹山、鏡湖、新潟、湊、上山、新通、笠木、五十嵐、坂井東、西内野、東青山、内野）に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	39名(のべ105名)	特に設定しない	見附市立見附小学校、見附第二小学校、名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、新潟小学校、上北谷小学校、今町小学校、見附中学校、南中学校、今町中学校、西中学校、見附特別支援学校（総計13校）に対して、主として、8月～10月に実施された補充学習（国語、算数等）、自然教室、水泳指導等に学生を派遣した。
三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	4校、10名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立四日町小学校、大島小学校、第一中学校、第三中学校（総計4校）。 (2) この他、「わくわく科学フェスティバル」（8月）、三条市中学校音楽祭（11月）、子育て支援課「放課後子ども教室」、中央公民館「ふれあい自然体験ボランティア」（8月）に対しても、それぞれ、17名、3名、3名、5名（28名）の学生を派遣した。
燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	8名(のべ103名)	特に設定しない	小学校5校（燕北小、大関小、吉田小、吉田南小、吉田北小）と中学校1校（吉田中）に、学習支援（授業補助）に派遣した。小学校1校（燕北小）に学習支援（長期休業中の学習会などの学習支援、行事の支援）に派遣した。 中学校1校（吉田中）に、ホームページ更新作業に派遣した。 市教育委員会の事業（小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に1名派遣した。
附属学校園、協力校園	特に設定しない	10名	「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、選択必修、2単位）	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」（研究科共通科目、必修、2単位）の一環として実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で17年目を迎えた。おもに、教育学部学校教員養成課程1，2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである。）

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・教育委員会などの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、昨年度同様に計4コース（募集人数50名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られるようになった。最終的な認定を必要としない学生一リピーターとして参加している2年生以上の学生も数名みられるようになった。単位認定者数以上に、多くの学生参加があった。多様なコースを開設したり、魅力的なコースを開設したりすることで、繰り返し参加する学生が増え、学生間の縦の繋がり連携が生まれてきつつある。学生主体の活動が徐々に作られつつある。

一方で、指導体制の整備・充実に課題も抱えている。今後の大きな課題である。

平成25年度「フレンドシップ実習」コース別活動内容についての一覧

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	単位認定学生
① グループ体験コース	松井賢二	個別実習 9月中 全体実習 8月27日	ひまわりクラブと連携し学生企画の遊びで交流	ひまわりクラブ	13名
② 自然科学実体験コース	宮菌 衛	5月から12月まで計7回(土曜日午前) 8月「宇宙教室」	NPO 法人星空ファクトリー主催科学実験講座の補助、JAXA 協力の補助	NIC 新潟大学前 新潟大学	7名 単位未認定の一リピーター有
③ 野外活動体験コース	大橋正春	9月7日 10月12-13日	ウォークラリーとテント泊・キャンプファイヤー	新潟大学構内	16名
④ 「子どもふれあい体験スクール」コース	佐藤佐敏	1学期から毎週、定期的継続的に学校を訪問して実施している	市教委と連携し放課後や土曜日午前中に学校施設内で地域の子どもの遊び等を通してのふれあい	内野小学校 西内野小学校 笠木小学校 坂井東小学校 新潟小学校	11名
全体発表会	佐藤佐敏 松井賢二 宮菌衛	2月13日(木) 午前中	各コースの活動発表と小グループでの意見交流会を学生主導で実施	教育学部 105 講義室 他	50名(欠席者はビデオ補講)

2.3 「入門教育実習」 ― 1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて15年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」専門部会）が実施を担当している。平成25年度においては、実習協力校11校3園、学部教員34名、実習校教員14名の受け入れ・指導体制によって実施した。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は149人、受入者は127人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～12名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ態勢の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	16名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	13名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	12名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	14名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	12名

上記の体制により、学生は、5月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

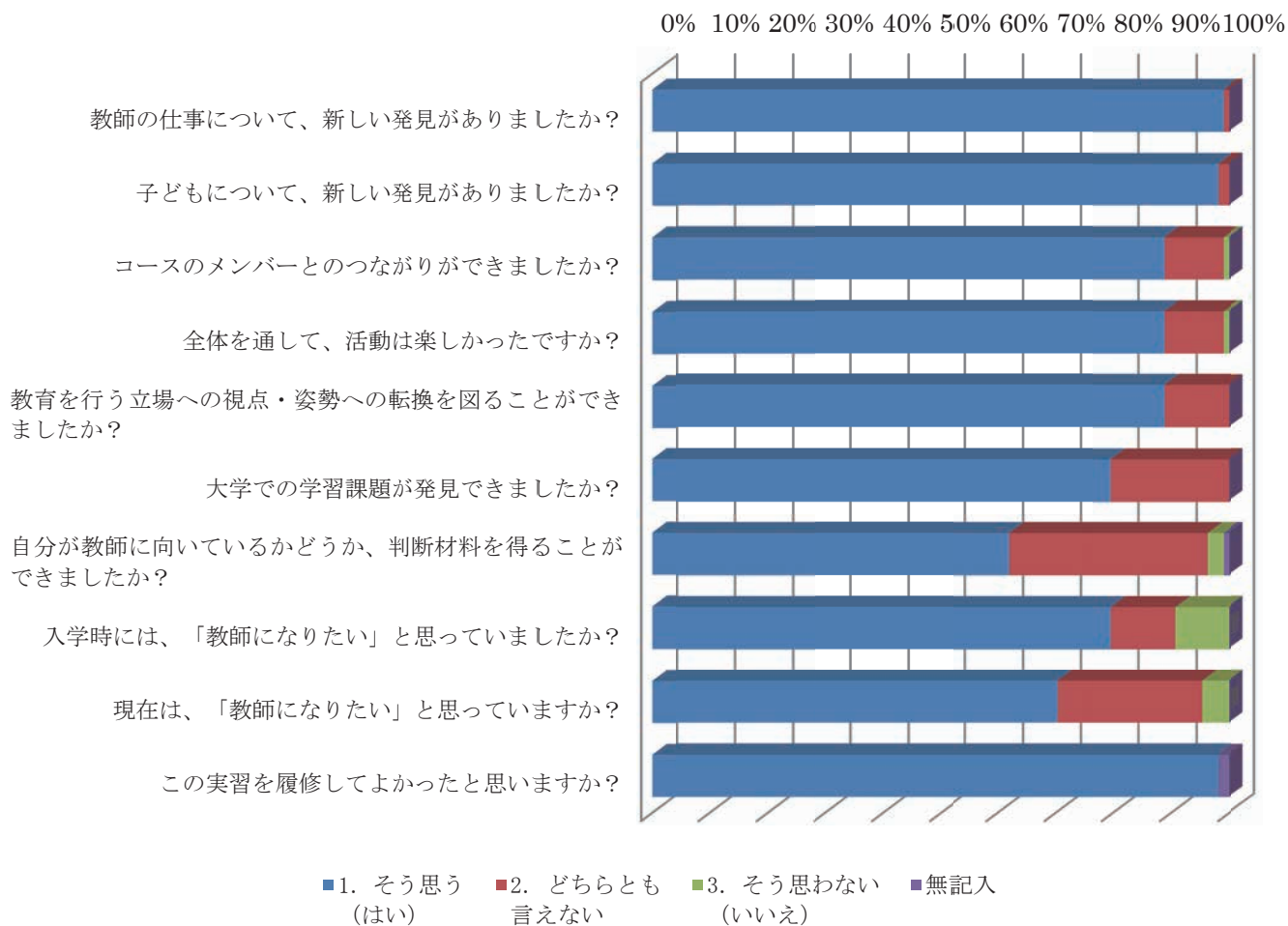
教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員4名、過去の履修経験者（4年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

3. 学生の動向

平成25年度における学校教員養成課程の入学者は222人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は149名、履修希望者は148名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、67.1%、66.6%にあたる。最終的な受入学生数は127人であり、これは履修希望者の85.8%にあたる。

平成 25 年度においても、報告会の機会を利用して、「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数 108 名、回収率 85.0%）。結果の一部を次に示す。

グラフ . 「入門教育実習」の成果と課題に関するアンケート調査より



4. おわりに — 「佐渡実習」の実施

平成 25 年度には、佐渡市の学校・地域を訪問する実習（通称「佐渡実習」）が開始された。この実習は、「入門教育実習」の取り組みの中から生まれた新しい実習であり、連動する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅳ」（2 単位、選択）を新設している。

「入門教育実習」については、『1 年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第 15 年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編、2014 年 3 月）に報告している。学部のホームページにも、その一部を公開している。合わせてご参照頂ければ幸いです。



実習風景

2.4 「研究教育実習」——教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。

「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、研究の目的は、(1)多様な教科領域において「研究教育実習」カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、本「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成25年度においては、国語科、家庭科、数学科、理科、音楽科、美術科、教育学科の各研究室において取り組みが進められた。その概要を表に示す。12月16日には、学習会『「研究教育実習」の現状と課題』が開催され、数学教育、家庭科教育の各研究室における取り組みが報告された。

なお、各研究室における今年度の詳しい取り組み、学習会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(IX)』(2014年3月)に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修 学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年・学級、時期、 時数、授業者等)
小久保 美子 (言語文化コミュニケーション講座・国語科教育学)	「国語科教育学課題研究Ⅱ」 (2単位、2学期、大学院1年、1人)	修士論文の研究において、中学校国語科における新聞を活用した学習指導の在り方について研究を行った。生徒にとって身近な問題となる「東京オリンピック」を題材とした社説の読み比べを通して自分の考えを持つという授業(中学校第3学年)を構想し、鳥屋野中学校にて検証授業を行った。	(1)新潟市立鳥屋野中学校、第3学年3組、5組、7組、各4時間。
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、3人)	卒業研究において、小学校及び中学校における家庭科の学習内容及び指導方法に関して検討を行い、その内容の一部について、授業として具現化し、学校現場で実証的に検討した。	(1)新潟市立万代長嶺小学校、第5学年2組、11月、6時間。 (2)附属新潟中学校、第3学年2組、11~12月、3時間。
高橋 桂子 (生活環境学科目・生活経営学)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、1人)。	卒業研究において、意思決定の重要な理論である実践的推論プロセスの学習モデルであるREASONモデルをとりあげ、このモデルに基づく授業案の構成を行った。その後、長岡商業高校にて授業実践を行うと同時に、県内7高校教諭に衣食住経営の4領域を対象とした授業案を郵送し、コメントを頂いた。	(1)新潟県立長岡商業高校、家庭科クラブ員、放課後。
垣水 修 (自然情報講座・幾何学)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、6人)	持続可能な開発に関する学習と数学の学習をどのように結びつけ、それを数学の教育課程にどのように取り入れていけばよいかについての研究を行った。特に、<人間開発指数>を題材とする教材	(1)附属新潟中学校、第2学年、11月、2時間。

		を開発し、附属新潟中学校において授業実践を行い、それを基に授業分析と考察を行った。	
山田 和美 (自然情報講座・数学教育学)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、留学生、大学院生(現職教員)、3人)	ICTを用いた算数・数学科における教材作成を行った。「空間図形」に単元を絞り、学習用ソフトウェアを作成した。 国費留学生、大学院生(現職教員)が英語による数学の授業を行った。この授業については日本数学教育学会の全国大会で発表する予定である。	(1) 新潟県立長岡高校、理数コース。 (2) 新潟県立新潟南高校、理数コース。 (3) 新潟県立新潟高校、数学のワークショップ。 (4) 県立教育センター、留学生による自国の授業の紹介。
土佐 幸子 興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)	該当する授業科目はなし* (2年次5人、3年次4人、4年次3人、大学院教育学研究科2人、自然科学研究科1人、総計15人)	理科4科目の指導力向上を目的として、参加者全員で1ヶ月以上かけて授業内容の検討、教材研究、模擬授業等を行い、授業実践した。準備期間には、実習先教員と、生徒の既習事項や現状についての打ち合わせも行った。実践後には、実習先教員と協議会も行った。	(1) 燕中等教育学校、第3学年、5月～3月、2学級、各80分、土曜講座4日間。 * 2010年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始。本事業は2011年度で終了。
森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育学)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、2人)	卒業研究において、小学校音楽科の学習内容及び指導方法に関して検討を行い、その内容の一部について授業として具現化し、学校現場で実証的に検討した。	(1) 新潟市立亀田東小学校、第4学年、11月～12月、6時間。なお、学習ボランティアとしても、年間を通して、週1回程度実施した。
佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)	「美術科教育課題研究III、IV」 (各2単位、前期・後期、大学院2年次、1人)	地域に関連した教育実践として、地元の小学校である内野小学校3年生に、美術科が行っている地域密着型アートプロジェクト「うちのDEアート」に展示する作品を制作してもらった。	(1) 新潟市立内野小学校、第3学年、5～10月(展示期間を含む)、実践は6月、2時間。
柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)	「卒業研究」 (6単位、通年、4年次、1人)	美術教育における「展示」の教育的効果を研究テーマとし、学習支援ボランティア活動で関わっている学校の協力を得ながら、実践を行った。	(1) 新潟市立寄居中学校、美術部(部員30名)、11月、2時間。
岡野 勉 (教育科学講座・教育内容・方法)	「教育内容・方法演習C・D」 (各2単位、前期・後期、3年次、6名、4年次、5名)	初等数学教育における重要な教育内容である分数について、教育内容・教材、指導過程構成等に関する研究成果の検討を行なった。 これを基礎として、小学校4年生を対象として実施された、分数概念の導入に関する一連の授業(総計約15時間)を対象として、授業過程、評価テスト、感想文の分析・評価を試みた。終了後、授業者の出席を得て、総括的な報告と質疑・意見交換を行なった。	(1) 群馬県富岡市立丹生小学校、第4学年、2012年12月、約15時間、同校教諭神戸康寿。

2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業 ― 学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後11年めにあたる平成25年度において、学校からの派遣要請総数は124校、248人であった。派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、大学院教育学研究科、人文学部、医学部に在籍する学生・大学院生、総計156人である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（59校、100人）、中学校（31校、50人）、幼稚園（1園、2人）、特別支援学校（2校、2人）、中等教育学校（1校、2人）総計94校である。学校数、派遣人数については、平成24年度（90校、148人）から、派遣校数が4校増え、派遣者数が8人増加した。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、この事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生136名のほか、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計141人）。12月には、「平成25年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生148名のほか、大学教員、現職教員等、総計約181人）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成25年度においては、38人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第11年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校12校に対して、45人の学生（大学院生1人、他学部生11名を含む）を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、見附市立学校には13校（小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校）に39人、三条市市立学校には4校（小学校2校、中学校2校）に10人、燕市立学校には6校（小学校5校、中学校1校）に8人の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景（理科の授業）



公開シンポジウム（全体討論風景）

2.6 教育実習

1 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

2 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

(1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

(2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。実習後には、附属学校の教員等を講師として事後指導を兼ねてのキャリアガイダンスを実施した。

(3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

(4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.7 介護等体験

1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

2 ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成25年4月10日（水）

対 象 平成25年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施にあたって

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 菌 衛 部門長

(3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 大竹 嘉則 氏

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

(4) 介護体験の諸連絡等

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

○ ガイダンス

月 日 平成25年12月16日（月）

対 象 平成26年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

3 実習状況

平成25年度は、学校教員養成課程213名、その他の課程74名、大学院3名の計290名が表1及び表2のとおり実習を行った。

4 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等による10名の実習取消や、学生の確認・準備不足による期間変更があるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】平成 25 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	60	196	
長岡市	11	16	
三条市	5	8	
新発田市	9	15	
柏崎市	7	10	
加茂市	1	3	
十日町市	1	2	
村上市	4	4	
燕市	2	4	
糸魚川市	2	3	
五泉市	3	4	
上越市	9	11	
阿賀野市	3	3	
佐渡市	2	3	
南魚沼市	3	5	
胎内市	1	1	
阿賀町	1	1	
合 計	124	289	

※ 1名昨年度社会福祉施設における介護等体験実施済

【表 2】平成 25 年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	H25.5.8 ~ 5.9	30
	2	H25.5.15 ~ 5.16	27
	3	H25.5.23 ~ 5.24	30
	4	H25.6.25 ~ 6.26	27
	5	H25.7.2 ~ 7.3	30
	6	H25.10.23 ~ 10.24	29
	7	H25.11.11 ~ 11.12	29
	8	H25.12.4 ~ 12.5	29
	9	H25.12.11 ~ 12.12	29
	10	H26.1.15 ~ 1.16	29
合 計			290

2.8 「キャリア・デザイン論」(2単位)の開講

平成17年度より、3年次以上の教育人間科学部学生を主たる対象とした全学科目「キャリア・デザインⅠ」、「キャリア・デザインⅡ」を開講してきた(担当教員:松井、高橋)。

平成23年度からは、対象学年を2年次以上に拡大し、2つの授業を充実・発展させる形で、あらたに「キャリア・デザイン論」(2単位、隔年開講)を開講した。

この講義は自己理解を深めて己を知り、見知らぬ他人とのコミュニケーションを図ることを積極的に行うとともに、十分に時間をかけて将来のキャリアを考えようというものである。

テキストとして、本年度も『キャリア・デザイン』(仙崎武監修、文化書房博文社)を利用し、下記のとおり、集中講義で開講した。具体的な内容は次のとおりである。

*「キャリア・デザイン論」(2年生以上対象、15コマ、2013/8/19、9/3、9/27開講)

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (10)	「自己分析」をテーマとして、まず職業選択における自己分析の重要性を講義する中で、その必要性を認識させた。そして、2種類の検査(VPI、CA-PA)を実施しその結果を検討することによって、自己分析を行った。これらの分析結果を参考にして、自分に適した職業について再考し、その理由を明確化した。さらには、自己分析の結果を参考にしながら、ロールプレイングで模擬面接を行うことを通して、再度自己を見つめると同時に、自己PRの仕方などについても実践的に学習した。
高橋桂子 (5)	キャリアをデザインするためには、1)己を知り、2)環境を知り、3)己と環境との関わり能力を開発することが必要である。本講義では2)と3)に重点をおいた。具体的には2)では仕事と法律・経済(生涯所得、所得税の算出や労働基準法)を、3)では他者と明確な差別化をはかった「3分間トーク」を3回行い、初めて出会った参加学生同士で評価しあったり、自分が抱える問題を課題するためのチャート図作成を行ったりして、関わり能力開発を試行した。

2.9 「学校インターンシップ」——大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成 17 年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2)教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3)専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成 19 年度までは「教育実践総合研究」(2 単位)の一環として位置付けられていたが、平成 20 年度に行われたカリキュラム改革により、「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、2 単位)として独立している。

平成 25 年度は 10 名の大学院生が 5 校において活動を実施した。その概要を次に示す。

No.	氏名	所属	実施校	目的・活動内容・形態	時期
1	土佐 優都季	臨床心理学	新潟市立明鏡高等学校	・スタッフ間の連携、特に教師・養護教諭・スクールカウンセラー(専門家)のやりとりについて把握 ・定時制高校の現状および、生徒指導状況の把握 ・特別な支援を必要とする不安定な生徒の精神面のサポートおよび進学支援	7 月～2 月まで 週 1 回、木曜日 15:30～17:00
2	佐藤 義則	特別支援教育	新潟市立内野小学校	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室の果たす役割や児童の変容について考察する	7 月～3 月まで 週 1 回、木曜日 14:30～15:20
3	岩部 祥子	美術教育	新潟市立内野小学校	・小学校の図工の授業やクラブ活動など、造形活動において、子ども達に多様なイメージをもたらす題材研究を実際に行うため。 ・小学校のクラブ活動の時間をお借りして実践を行う。子ども達に造形活動を通して多様なイメージ作りをさせるため、題材の与え方を工夫したり、表現形態をダイナミックにしたりする。	7 月～10 月まで 週 1 回、金曜日 9:00～16:30
4	北野 裕貴	特別支援教育	新潟大学教育学部 附属特別支援学校	・通級指導教室の様子・授業内容を観察し、児童・生徒の行動の変化についてまとめる ・週に1度の授業観察又は参加	7 月～3 月まで 週 1 回、木曜日 17:10～18:10
5	倉島 崇彰	特別支援教育	新潟大学教育学部 附属特別支援学校	・通級指導教室の様子・授業内容を観察し、児童・生徒の行動の変化についてまとめる ・週に1度の授業観察又は参加	7 月～3 月まで 週 1 回、木曜日 17:10～18:10
6	丁 岩	特別支援教育	新潟大学教育学部 附属特別支援学校	・発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室の果たす役割や児童・生徒の変容について考察する ・週に 1 度の授業観察、可能な支援	7 月～3 月まで 週 1 回、木曜日 17:10～18:10
7	谷川 美記子	特別支援教育	新潟大学教育学部 附属特別支援学校	・発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室の果たす役割や在籍校との連携のあり方を考察する ・通級指導教室への参加・在籍校での授業参加	7 月～3 月まで 週 1 回、火曜日 17:10～18:10
8	遠藤 修宏	英語教育専修	新潟大学教育学部 附属新潟小学校	・授業観察、支援、小学校外国語活動に関する研究 ・CLIL 活動に対する児童への有用性の有無とその理由を実際に授業を行うことで考察する。	7 月～12 月まで 週 1 回、火曜日 8:30～17:00
9	佐藤 大介	特別支援教育	新潟市立内野小学校	・発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室の果たす役割や児童・生徒の変容について考察する。発達指導通級指導教室への参加。	7 月～3 月まで 週 1 回、木曜日 14:30～15:20
10	村山 遥香	美術教育専修	新潟市立内野中学校	・協働プロジェクトの実践を通して、生徒の実態と美術教育の教材について学ぶ ・美術部の部活動の時間に、地域アートプロジェクト「うちの DE アート」の企画である「WS 屋台」を制作する	7 月～10 月まで 週 1 回、水曜日 13:00～15:00

また、2013 年 12 月 19 日に受講生により組織された実行委員会の計画、運営により「学校インターンシップ」報告会が開催された。当日は、一柳智紀委員長による挨拶に続き、3 名から活動報告があった。その後、参加学生・教員による質疑応答が行われた。最後に鈴木賢治教育学研究科長による講評があった。

なお 2 4 年度における活動の内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編「大学院教育における実践的カリキュラムの開発(第 8 年次)」、平成 2 4 年度「学校インターンシップ」実践報告書、2013 年 3 月。

- ・企業等インターンシップ

(1)学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

①平成25年度インターンシップの概要

- ・実施時期及び期間

平成25年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

- ・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

- ・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

- ・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：中【4】、石山【3】、中央【2】、鳥屋野【2】、坂井輪【3】、西【2】、
小針青山【1】

新潟市図書館：豊栄【1】、中央【1】、西川【1】

新潟県立生涯学習推進センター【1】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【3】

②報告書

『平成25年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成26年2月21日）130部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め、実際に行う際の参考にさせています。

企業等インターンシップ(音楽表現コース)

音楽表現コースでは 2001 年度からインターンシップを実施しており、現在、6つの企業や団体が学生を受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall, 鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、世界規模の音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。

2013 年度のインターンシップには 9 名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成 25 年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ 報告書～大学を現場へ～』第 13 号を参照

・Hakuju Hall:8・9月(3名)

リクライニング・ジャズ・ヴォーカル・コンサート、並びに ギターフェスタ 2013 Baroque 等でのケータリング業務・受付業務・タイムキーパーなどの運営業務。アーティスト・レコーディングセッションの見学等。

・財団法人 東京交響楽団:6 月(2名)

事務所(ミュゼ川崎)見学、リハーサル(大久保)見学、第612回サントリーホール定期演奏会、第78回新潟定期演奏会などの運営業務。

・鼓童:8月(1名)

国際音楽祭 Earth Celebration でのフリンジ運営業務(小木みなと公園)。

・公益財団法人 新潟県文化振興財団:9月(3名)

アウトリーチ・コンサート(南魚沼総合支援学校・弥彦小学校)、マイタウン・コンサート(弥彦総合文化会館・南魚沼市民会館)等の運営業務。

2.10 各課程の特色ある教育活動

○国語教育講座の活動

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 25 年度夏期研究会

日時：平成 25 年 7 月 27 日（土）14：00～17：00

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：シンポジウム 「国語教師のライフヒストリー ―初任時の実践報告に学ぶ―」

シンポジスト	三条市立一ノ木戸小学校	脇園 学
	鶴岡市立鶴岡第五中学校	安部 陽裕
	新潟県立村上特別支援学校	笹川 大我
コーディネーター	阿賀野市教育委員会	伊藤 守

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 25 年度研究大会

日時：平成 26 年 2 月 1 日（土）13：30～17：00

場所：新潟大学教育学部 B 棟 105 講義室

内容：

① 研究発表

・大鏡作者の位置 藤原資平の視点から ―世継・古鏡の構想について―

五十嵐正子

・文学教育と文学作品の読み方指導 ―浮橋康彦、渋谷孝、田中榮―

新潟県教育庁下越教育事務所 三村 孝志

② 講演

・和歌を〈よむ〉ということ

新潟大学教育学部 山本 啓介

③ 総会

(3) 機関誌『新大國語』の編集・刊行

① 『新大國語』第 35 号（平成 24 年 3 月）を刊行。

② 『新大國語』第 36 号（平成 26 年 3 月）を編集。

○ 自然情報講座の活動

1. 専門性と実践力を強化する特色ある教員養成

i) 新潟市立総合教育センターとの連携

市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

ii) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

土曜講座という正規外に位置付けられた授業において、中学3年生を対象に4テーマについて実践(80分×2クラス)を行った。発展的な内容について、学生チームが教材開発を行い、実験・観察を豊富にとり入れた理科授業をデザインした。

2013年5月11日(土) 化学(酸化還元反応)

10月2日(土) 生物(木の成長のしかた)

12月14日(土) 物理

(発電とエネルギー変換)

2014年3月1日(土) 地学(月の満ち欠け)

iii) 理科支援員等配置事業における小学校理科の支援

2013年度から文部科学省が実施している小学校、中学校の理科の実験・観察を支援する補助員(PASEO)として、計3名の理科の学生が新潟市の小学校で活動に従事した。

iv) 長岡市立科学博物館との連携

長岡市立科学博物館の主催する、第62回県下生物・岩石標本展示会に、生物科の3年生が野外実習で作成した植物標本(合計150点)を参考作品として出品した。

v) 化学実験公開講座の開催(2013年8月7日(水))

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学・21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生5名が「発泡性入浴剤(バブ)を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ(全15テーマ)の講座を企画・実施した。この体験実験に参加した高校生は8名であった。



図1 生物回の割り箸薄片の染色実験の様子

2. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

2008年度より長岡市立日吉小学校の科学クラブ(対象は小4~小6, 約20名)の支援を実施している。今年度は理科教育学研究室の3年生が実施した。

内容と実施日: 風車(11月27日)

平成 25 年度特色ある教育活動

○芸術環境創造課程音楽表現コース

平成 25 年 11 月 10 日(日)に、新潟大学医歯学総合病院会議室において、教育学部音楽科授業「合唱」及び「舞台芸術」の授業成果発表を行いました。

この企画は、入院患者さんに快適で潤いのある療養生活を提供したいという病院の意向と、日頃の授業等に成果を発表・披露する場を求めている学部の意向が一致して始められたもので、平成 17 年度初めて開催されて以来、今回が 9 回目の開催となりました。

当日は患者さんやそのご家族など延べ約 100 人が来場して開催されました。最初に音楽科女声合唱団により女声合唱のための唱歌メドレー『ふるさとの四季』が演奏され、その後キャスト、スタッフ総勢 23 人の学生により音楽劇『ぞっとする物語』が公演されました。プログラムの中間に〈みんなで歌いましょう〉ステージを設け、『もみじ』『ふるさと』を客席の皆さんと一緒に合唱しました。会場は一緒に口ずさんで歌われた方がおられるなど、和やかな雰囲気に入れられ、その後に公演された音楽劇では時々客席から拍手が起こるなど、大変喜んでいただくことができました。

今回も来場者及び病院側のスタッフから喜びの言葉、感謝の言葉が寄せられ、学生達にとっても今後の活動を行う上で大きな励みとなりました。

混声合唱



音楽劇



記念写真



特色ある教育活動(音楽表現コース)

新潟市西区役所との連携により、大学と地域連携プロジェクト「暮らしっく広場2013」を大学カリキュラム(「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」)の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われるこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、初年度にあたる今年は17名の学生スタッフの発案・運営による6企画7公演が行われた。これらは、プロジェクトの核となる最終公演を中心に立案され、学生たちの手によって運営されて、教職員や地域の方々延べ1350人にご参加いただいた。

各回では、音楽科の教員を初め新潟市中心に広く演奏活動を続けている地元のアーティストたちが共演するコンサートを学生スタッフが企画運営した。これらの関連企画では、これまでに学んだニューヨークフィル・ティーチングアーティストたちのコンサートで核となる entry point を学生たちが応用し、台本を含むすべての流れを制作し、出演者への交渉・依頼などプロジェクト全体の運営を行った。また、今年は新路線として、南米フォルクローレ(タンゴ)や声楽を中心とするコンサートなども初めて行われ、SNSの活用も含めて大きな発展を見た。

詳細は、横坂研究室ホームページ(<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>)に掲載の全体広報誌や各企画のチラシ、プログラム等を参照のこと。

佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で5年目になる佐渡市豊岡地区祭り（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。祭りに先立って3月27日～3月31日、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。大学に戻り、祭礼の前日4月13日に再度佐渡入りをし、地元の方々と共に準備を行って14日に祭りの本番を迎えた。例年、学生は法被を着けて舞うだけだが、今年は学生1名が面、装束を着けて舞うという重責を初めて任された。この成果は今年度も訪れたサスケハナ大学の学生諸君に、ワークショップとして披露することができた。



村上市立西神納小学校訪問演奏

9月5日、村上市立西神納小学校に訪問演奏に出向いた。これはコレギウム、音楽教育入門の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30数名で行ったものである。今年はサンバをテーマに行い、好評を博した。



特色ある活動 芸術環境創造課程書表現コース

学生が自主的に展覧会を企画運営している。今年度開催された書展を列挙する。

- 1 2年生による学年展（新潟市西新潟市民会館，2013. 5）
- 2 芙蓉会書展（新潟市民芸術文化会館，2013. 7）
- 3 驥鳳会書展（新潟市便芸術文化会館，2013. 8）
- 4 書道科展（新潟県民会館，2013. 12）
- 5 卒業制作展（新潟県民会館，2014. 2）

この他学外からの依頼に応じ、

- 1 新潟水道局（新潟市民芸術文化会館，2013. 5）
- 2 新潟市成人式（朱鷺メッセ，2014. 1）

以上の式典に記念行事としてパフォーマンス書道を展開した。

芸術環境創造課程造形表現コース・学校教育課程美術教育 特色ある教育活動

1. 「日本海夕日コンサート舞台演出」

日本海夕日コンサートは、新潟市民のボランティアが運営するキャンペーンである。芸術環境講座では毎年、有志の学生を集め実行委員会と関わり取り組んでいる。この取り組みは、芸術表現を活かした社会体験のインターンシップとして位置づけている。指導は柳沼教授、橋本准教授が担当。

会期：2013年8月10日(土)

会場：新潟市青山海岸

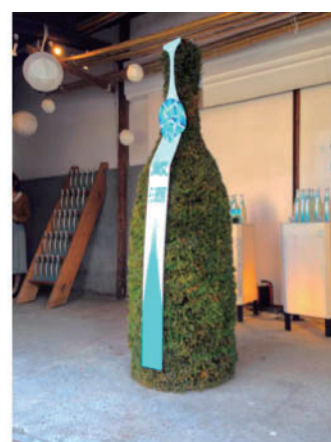
主催：日本海夕日キャンペーン実行委員会

後援：新潟市



2. 「地域連携アートプロジェクト」

講座での特色としては、新潟市西区内野町を舞台としてアートを用いた地域コミュニティ活性化事業である「うちのDEアート」の存在がある。また、中央区での「新潟・オフィス・アート・ストリート」の取り組みなどに取り組んだ。教員及び有志の学生は実行委員会に組織され、街の組織委員との協議を重ねプログラムを組み立てて活動を試みている。講座としての狙いは、芸術表現と社会との接点から造り上げられる新たな表現を生み出すことを目的として進めている。そこには、様々な人との関わりから生まれるコミュニケーション能力の学習、企画を遂行してゆくマネジメント能力の育成が養われている。ここで学んだ力は教員として大事な自信を持った行動力を養い、共同作業として実社会で活動した体験や経験が就職活動時のPR資料として有効に使われている。



各課程の特色ある教育活動

○学校教育課程保健体育専修・健康スポーツ科学課程・養護教諭特別別科

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports For P.E.A.C.E.～（平成22年度より継続）

本プロジェクトは、平成 22 年度より 24 年度まで新潟大学組織的教育プロジェクト（新潟大学GP）として実施されていた企画を引き続き実施したものであり、現在では P.E.A.C.E. プロジェクトとして 3 大学間において継承されている。本年度は新潟大学が当大学としてこれに当たった。期日は平成 25 年 10 月 25 日～10 月 28 日に実施し、漢陽大学（韓国）より 6 名、哈爾濱商業大学から 8 名を招き、卓球クリニック、水泳競技会、及び討論会を実施した。それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより交流イベントを学生自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深め学士力を高めることを狙いとしたものである。取組みの目的は以下の通りであり、その概要は図 1 に示した。

<取組の具体的な目的>

1. 大学を中心とした地域社会で行っているスポーツ活動について、スポーツを通して交流し、諸外国と比較してグローバルな視野を育成
2. 教員間の交流により、双方の授業の在り方について情報交換、比較検討し、魅力ある授業科目の開講
(教員の職能開発)
3. 学士課程専門教育における開設科目について体系的、総合的に応用して双方における優れた点の共有化
(教育課程の体系化)
4. インターネットを活用した日常的な交流を通し、デジタル映像の活用やPCの利用によってこれらのIT技術をスポーツの中に取り入れるアイデアを培いそのテクニックの習得
(教育方法の改善)
5. 英語や他国言語を用いて異文化との交流を行うことにより、生きた語学学習に結びつけていくとともにコミュニケーションスキルの習得
(教育課程の体系化)
6. 各国各大学の得意種目における競技力向上のシステムを共有することによる競技力向上
7. 各国各大学の地域産業や地域住民との関わりに関する活動を相互に検討しながら地域と共にスポーツが活性化される手段の確立

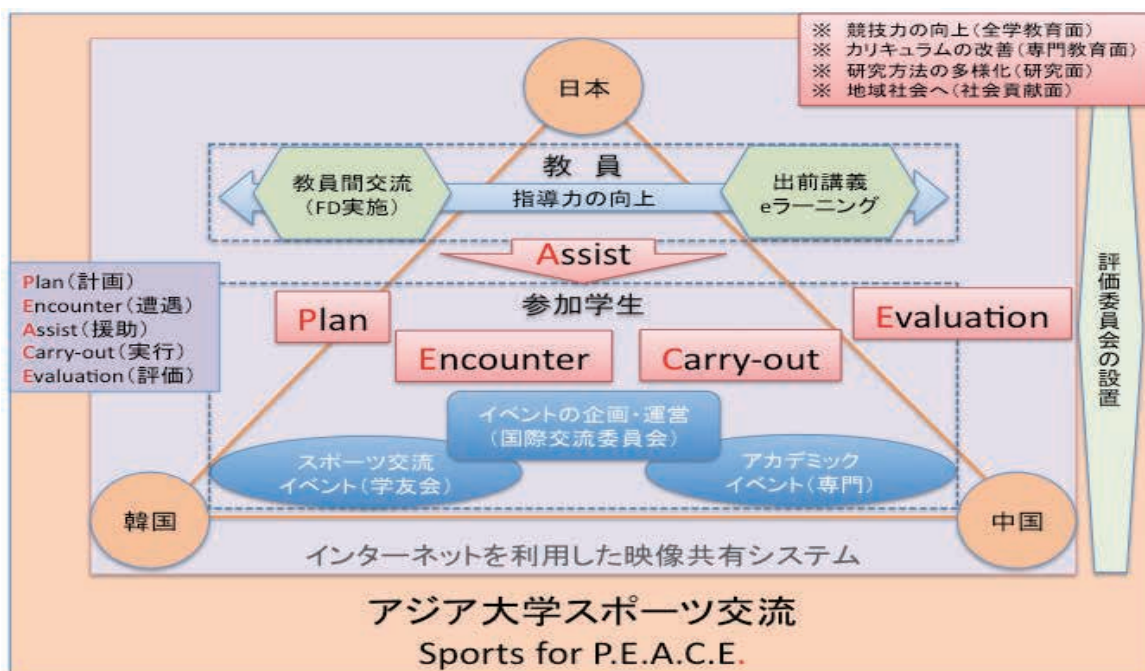


図-1 P.E.A.C.E.プロジェクトの概要

<平成25年度の主な取組内容および成果>

(1) 哈爾濱商業大学Zhang教授による卓球クリニック（白根カルチャーセンター）

期日：10月26日（土）午前

哈爾濱商業大学の Zhang 教授を招いての卓球クリニック白根カルチャーセンターで開催した。講師は中国卓球プロ選手として8年間活躍し、ナショナルチーム（青年）を3回経験している。当日は新潟市のジュニア選手を対象にしてクリニックを実施（参加人数11名）。Zhang 教授の洗練された技術を目の当たりにした小学生選手たちは世界で戦うために何が重要であったかを感じていた。また、日本・中国・韓国の学生たちも互いにペアをつくりながらの卓球交流。こちらは楽しく和気藹々とした時間が過ぎていた。子どもたちも学生も、卓球を通じてそれぞれ大切な思い出をつくることができ、今回の機会がこれからにつながる大いなるステップになったことであろう。



図-2 地域の子も達への技術講習の様子

(2) スポーツ（水泳）交流イベント（メイワサンピア屋内プール）

期日：10月26日（土）午後

各大学代表選手による記録会を最初に実施した。その様子をビデオカメラで撮影し、お互いの泳ぎについて、グループ毎（同じ種目）で意見交換を行った。また、各国のコーチからも適宜アドバイスを頂いた。最後には、各国混合チームを編成しリレーを行った。選手だけでなく、コーチや教員も加わり、大変白熱したレースとなった（図-3）。

半日という短いプログラムであったが、競技会の運営・映像撮影・記録賞の授与など、学生が主体となって企画・運営し行われたもので、非常に意義ある交流イベントとなった。



図-3 3大学間の水泳競技会の様子

(3) アカデミック交流イベント（新潟大学教育学部教室）

期日：10月27日（日）

これまでの3年間で、3大学間の教員及び学生の友好関係が深まっていることに加えスポーツイベントを行うことでの競技スポーツの技術向上、イベントの企画力・実行力の向上、ビデオ会議システムの設置、将来の交流の継続に関する3大学間の合意等、当初掲げていた目標を概ね達成することができたと思われる。しかし、本来の趣旨である学生が自ら企画し3大学間でどのように連携を取って行ったら良いか等の問題点が残されていた。本年度の3大学の学生ミーティングにおいてそれぞれの大学において学生の国際交流委員会を組織し、それぞれの委員会が有機的に連携する意義が再認識され、より一層の学生間の密な連携が期待される方向性が持てた。

今後もスポーツを介して国際交流事業を実施し当初の目標を達成すべく努力をして行きたい。そのためにも学生の国際交流委員会の立ち上げや学生による3大学間のコミュニケーションをこれまで以上にどのように図って行くかがキーポイントになるであろう。



図-4 閉会式後の教員及び交流委員

（文責 五十嵐久人）

2013「新大なんでもスポーツプロジェクト」について

「新大なんでもスポーツプロジェクト」も 8 年目を迎え、保健体育・健康スポーツ・養護教諭特別別科の教員や大学院生、学生が、指導やアシスタントに参加して大変に意義のある企画となっている。

2013 年度は、A：安全・安心のためのスポーツ環境づくり - スポーツ指導におけるリスクマネジメント -、B：キッズリズム体操“新大生と体操発表会出場”、C：スイムクリニック、D：五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう、E：小・中学生のための卓球教室、F：ちびっ子テニスの集い、G：集まれ！！ソフトボール広場、H：市民ランナー入門～あなたにもフルマラソンが走れます～ の 8 コースが、約 450 名の参加を得て 7 月 19 日から 12 月 1 日までの期間開催された。

地域と連携するスポーツは、住民参加にとどまらず子どもの参加するプログラムも多く「Quality of Life」（生活の質）から「Quality of Community」（地域の活性化）のトレンドを実現する可能性を示すものとなっている。



また、学生、院生が、アシスタントとして指導に参加する中で、自らの指導経験の蓄積や指導能力の改善を図る取り組みとして、その後の大学での理論や実技の学習意義の確認にも貢献するものと評価される。

リピーターの参加者も多く、地域に根差した企画として大きな意義を持っており、今後のさらなる取り組みが期待される。

写真：小・中学生の卓球教室（参加した子どもとお手伝いの卓球部員）

2.11 中・高校生等の大学見学

本学部では、入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行っている。
同見学では、担当教員が専門性を生かした模擬授業を実施し、本学部の魅力をアピールしている。

No	学校名	対象者等	実施日	担当者
1	附属長岡小学校	5年生40名及び保護者33名	6月10日	伊野 義博 岡村 浩
2	長岡大手高等学校	保護者37名	6月27日	中村 和吉(広報委員長)
3	新発田南高等学校	保護者45名	7月2日	岡野 勉
4	附属新潟中学校	2年生150名	7月10日	富田 健之(附属新潟中学校長) 鈴木 恵
5	小千谷高等学校	80名	7月11日	飯野 由香利
6	新発田南高等学校	1年生48名	7月17日	雲尾 周
7	新潟中央高校	3年生120名	7月22日	伊野 義博
8	附属長岡中学校	1年生22名	9月25日	岡村 浩
9	北越高等学校	2年生78名	10月1日	山崎 健 八坂 剛史
10	郡山高等学校	1年生80名	10月3日	中村 和吉(広報委員長) 飯野 由香利
11	川口高等学校	1, 2年生 12名	10月29日	下保 敏和

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～を実施した。

講師は、全学教職支援センターの杉浦隆夫客員教授、高野榮特任教授、杉中宏特任教授である。

1 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

2 実施内容

(1) 前期分

対象学生：学部4年生、大学院生、養護教諭特別科生、新潟大学の卒業生

開講時間：16:25～17:55（ただし、第2・12・13回は、下記※印のとおり）、場所：204 教室 外

	実施日	テーマ（内容）	講師
1	4月18日（木）	ガイダンス	杉浦・高野・杉中
2	5月9日（木） ※15:30～17:00	教員採用検査についての説明 （新潟県教委・新潟市教委からの説明）	新潟県教育委員会 義務教育課若月管理主事 高等学校教育課小川管理主事 新潟市教育委員会 教職員課伊藤管理主事
3	5月23日（木）	筆答検査問題対策①	杉浦・高野・杉中
4	5月30日（木）	筆答検査問題対策②	杉浦・高野・杉中
5	6月20日（木）	個人面接に関する講義と演習、個人・集団面接	杉浦・高野・杉中
6	6月27日（木）	個人・集団面接、模擬授業の講義・演習	杉浦・高野・杉中
7	7月4日（木）	第1次検査へ向けた心構え	杉浦・高野・杉中
8	7月11日（木）	第1次検査の反芻と第2次検査のガイダンス	杉浦・高野・杉中
9	7月18日（木）	第2次検査に向けての対策1	杉浦・高野・杉中
10	7月25日（木）	第2次検査に向けての対策2	杉浦・高野・杉中
11	8月5日（月）	第2次検査に向けての直前対策	杉浦・高野・杉中
12	11月7日（木） ※18:00～18:50	臨時教員採用希望者への指導・助言 （「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」）	杉中（杉浦・高野）
13	11月14日（木） ※14:40～16:10	採用候補者への指導・助言	本校卒業生（平成25年採用） 新潟市立新通小学校本川教諭 新潟市立白新中学校山田教諭

(2) 前期分

主たる対象学生：学部3年生，大学院1年生 開講時間：16:25～17:55，場所：204教室

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月10日(木)	特別講座のガイダンス	杉浦・高野・杉中
2	10月17日(木)	法規について，学習指導要領について	杉浦・高野・杉中
3	11月7日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて	新潟市教育委員会学校支援課 齊藤指導主事
4	11月14日(木)	採用検査に向けた指導Ⅰ	杉浦・高野・杉中
5	11月21日(木)	採用検査に向けた指導Ⅱ	杉浦・高野・杉中
6	11月28日(木)	学習指導上の課題とその解決に向けて	新潟市立小針中学校津野校長
7	12月12日(木)	採用検査に向けた指導Ⅲ	杉浦・高野・杉中
8	1月9日(木)	採用検査に向けた指導Ⅳ(採用内定学生による助言)	採用内定学生
9	1月16日(木)	教育行政が期待する教師像	新潟市教育委員会教職員課 有本課長補佐
10	1月23日(木)	本講座のまとめと次年度特別講座に向けて	杉浦・高野・杉中

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

1 教員採用試験対策支援プログラム（H26.4 採用者向け）

（1）合格者体験発表

平成 24 年 12 月 6 日（木）5 限，次年度教員採用試験受験者を対象とした「合格者体験発表」を行った。参加者は 42 人。

前半は，今年度教員採用試験に合格を果たした先輩 4 名が自らの体験談を発表，後半は，質問タイムとして，校種ごとに教室を分かれ，後輩たちから寄せられた様々な質問に答えた。参加者からは「先輩の話を聞き，やるべきことが見えてきた」などの感想が寄せられた。



（2）教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成 25 年 1 月 29 日（火）5 限，時事通信出版局から講師を招き，「教員採用試験の最新動向と対策」について講演を行った。参加者は約 150 人。

教員採用試験の最新動向と対策，過去問の分析方法と活用法，最新教育時事の傾向と対策について，今年度実施した教員採用試験の分析結果や今般の情勢を踏まえた，わかりやすい講演をいただいた。参加者からは「教採に向けて何に取り組むべきか明確になった」などの感想が寄せられた。



(3) 教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

平成 25 年 5 月 16 日（木）18:00～19:30、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生 2 名を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は 74 人。

実際の教員採用検査と同じ進行で授業を実施した後、質疑応答を行った。参加者からは「昨年まで同じ授業を受けていた友人と先輩が先生になり、本物の授業を見ることができ、本当に感動しました。導入の仕方、子どもへの思いが大切なのだと改めて感じた」など大きな刺激となった様子が見られた。



(4) 教採対策講義（教職教養・特別支援教育・教育心理学）

平成 25 年 5 月 9 日から 6 月 6 日の毎週木曜日、教員採用検査対策として以下のとおり教採対策講義を行った。参加者は延べ 250 人。

<教採に向けた教職教養（全 4 回）> 5 月 9 日、16 日、30 日、6 月 6 日

<特別支援教育の現状について> 5 月 23 日（木）

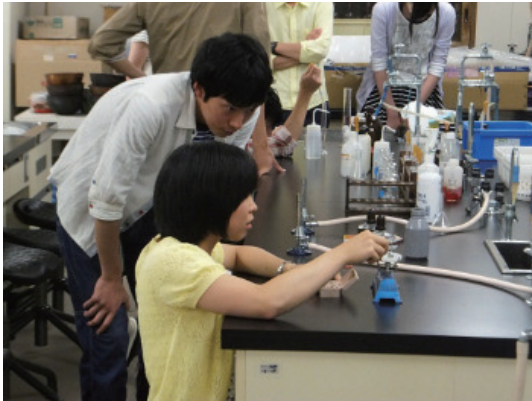
<教採に向けた教育心理学> 5 月 30 日（木）

参加者からは、「(教職教養) 何をすればよいか明確でわかりやすかった」、「(特別支援) 特別支援教育についてあいまいだった部分がはっきりと理解できた」、「(教育心理) 自分の覚えていることを口に出して説明する難しさがわかった」などの意見が寄せられた。



(5) 理科実技試験対策

平成 25 年 5 月 30 日 (木), 31 日 (金), 6 月 24 日 (月), 25 日 (火), 教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者 (延べ 12 名) は, 理科教員から, 実技試験を想定したアルコールランプなどの実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。



(6) 小論文指導

平成 25 年 6 月 20 日 (木) 4 限, 小久保美子教授 (国語科) 指導のもと, 「小論文指導」を行った。参加者は約 90 人。参加者からは「不安だった小論文の書き方が整理できた」などの意見が寄せられた。



(7) 模擬授業

7 月 2 日～3 日, 7 月 16 日～18 日の 5 日間, 実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ 112 人。高木幸子副学部長・佐藤佐敏准教授を中心に, 現職教員 (派遣大学院生) や多くの学部教員の協力を得て実施した。

抽選により決定した授業実施者が, 実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し, 参加者との質疑討論の後, 教員等からアドバイスを受けた。参加者からは, 「見習うべきことがたくさん見つけられた」, 「現職の先生からたくさん話を聞くことができてよかった」などの意見があった。



(8) 面接・場面指導

平成 25 年 8 月 5 日 (月) 3 限, 「面接・場面指導」対策講義を行った。参加者は 86 人。
(元)新潟県教育委員会 小林美智先生をはじめ, 高木幸子副学部長, 伊野義博教授, 鈴木恵教授, 佐藤佐敏准教授が面接官役となり, 学生代表者 3 名と実際の教員採用試験を想定した面接・場面指導を行った。参加者からは「現場経験が少ないなりに何をすればよいのか分かった。今の自分にできることをしっかりやっていきたい」など, 二次試験の面接に向け, 意欲を高めた。



(9) 体育実技 (器械運動)

5 月 10 日から 7 月 26 日の毎週金曜日, 第二体育館において「体育実技練習会 (器械運動)」を行った。参加者は 54 名。五十嵐久人教授指導のもと, 教員採用試験の実技科目 (マット運動・鉄棒など) について, 実践的な指導を行った。

また, 練習会日程終了後の自主練習会場として, 体育館の貸し出しを行った (8 月 12 日 ~ 23 日)。



(10) 体育実技 (ダンス)

平成 25 年 5 月 2 日から 7 月 4 日の毎週木曜日の昼休み、滝澤かほる新潟大学名誉教授を講師に迎え、体育実技対策 (ダンス) を行った。参加者は、動きの見せ方や目線など具体的な指導を受けた。



(11) 小児のアレルギー疾患 ～学校における対応について～

平成 26 年 1 月 29 日 (水) 5 限、新潟市民病院小児科 上原由美子 医師を講師に迎え、学校現場におけるアレルギー症状への対処方法についての講演を行った。参加した約 70 名の学生は、アレルギーに関する正しい知識と対処方法を学び、「教師は子どもの命をあずかる、緊急の時は責任を持って対応しなければならない重要な立場であると改めて感じた。具体的にイメージできたのか良かった。」など、教育現場に立つ者として、意識を新たにしていた。



2 教員採用試験対策支援プログラム (H27.4 採用者向け)

(1) 教員採用試験の最新動向と対策 (時事通信出版局ガイダンス)

平成 25 年 12 月 20 日 (金) 5 限, 時事通信出版局から講師を招き, 教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は約 100 人。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析, 最新教育時事の傾向と対策について, 講演をいただいた。参加者からは, 「ポイントがわかり, すぐに教採に向けた勉強を始めようと思えた」などの感想が寄せられた。



(2) 教採対策講義 (教職教養)

平成 26 年 2 月 12 日, 14 日, 18 日, 20 日, 「教採に向けた教職教養」について講義を行った。参加者は延べ 300 人。参加者からは「何が大切かよくわかった。問題の解き方がわかり, やっていて力になるのがわかった。」などの意見が寄せられた。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成25年9月30日（月）に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、(1) 観察参加実習を振り返って、(2) 3年次の教育実習での心構え、(3) 教員という職業について、(4) 教員採用検査の流れを中心に、附属新潟小中学校の教員や学部教員等を講師にガイダンスを行った。参加者は247人。

参加した学生は、観察・参加実習を振り返り、3年次に行う教育実習に向けて、また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

1 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成25年11月26日(火)、企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。参加者は約60人。

講座では、内定者4名による具体的な就活体験談とパネルディスカッション、キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では、企業就職を果たした内定者2名からは、就職する企業を志望した理由や具体的な活動の時期や内容について、公務員就職を果たした内定者2名からは、試験勉強の方法、教員採用検査受験・一般企業就活との並行についての具体的な話があった。

続いて、パネルディスカッションが行われ、「応募書類の作り方をどのように工夫したか」、「就職活動・受験等のスケジュール管理の方法」などの項目について意見が交わされた。

最後に、キャリアコンサルタントより、キャリアセンターの活動についての紹介、自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスがあった。

参加者からは、「身近な先輩の話聞いて今後の方針が立てられた」、「試験勉強や面接練習、何事も早め早めに行う必要があることを感じた」、「面接内容や履歴書についてのことが具体的に聞けてモチベーションが高まった」などの意見が寄せられた。



2 就職・進路何でも相談会

11月～12月、「就職・進路何でも相談会」を開催した。このセミナーは、就職活動や今後の進路に迷っている学生を対象(全学年対象)として、進路や就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。参加者は11名。

キャリアセンター特任専門職員村山史子さん(キャリアコンサルタント)と学部教員が連携しサポートにあたった。

3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

1 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」（「教職理解特別講座Ⅰ」第12回）

日時：平成25年11月7日（木）18:00～18:50

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、杉中宏全学教職支援センター特任教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

2 平成26年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数96名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の12自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会および県外8自治体教育委員会（福島県・群馬県・埼玉県・富山県・福井県・山梨県・長野県・栃木県）へは、全学教職支援センター教員が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当教員
新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 下越教育事務所	1月14日(火)	杉浦客員教授 杉中特任教授
中越教育事務所 上越教育事務所	1月14日(火)	高野特任教授

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

1 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成25年10月2日（水）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。参加者は194人。

ガイダンスでは、(1) 全学教職支援センター特任教授から「教職理解特別講座」の説明、(2) 昨年度教育学部卒業生で県内の小・中学校で活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、(3) 佐藤佐敏准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。最後に、荒木就職厚生委員長から激励の言葉が贈られた。

参加者からは、「ちょうど教採に対する実感がわき始めた時期だったため、とてもやる気になった」「これからやるべきことを具体的に知ることができた」など、教員採用検査に向けて決意を新たにしたいようであり、今後も教育学部として現場で活躍する先輩方の話を聞く機会を増やしていきたいと考えている。



2 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成25年5月2日（木）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は159人。

ガイダンスでは、(1) 高木副学部長から、自身の教員生活を振り返っての「教職の楽しさ・やりがい」、教員採用検査対策支援プログラムの実施についての説明、(2) 横浜市中学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、(3) 佐藤佐敏准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意など具体的なアドバイスが行われた。

参加者からは「現役の先生、またOBの方の話を聞いてとてもよかった。現場の生の声を聞けるのはとても勉強になった」「より教員になりたいという気持ちが強くなった」「一緒に頑張る・頑張っている人たちがたくさんいることがわかってやる気が出た」などの感想が寄せられた。

3.7 教員採用・就職活動バス支援

教員採用及び就職活動支援として、本学部独自で「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」、「教採バスツアーin 東京」、「東京学校見学バスツアー参加支援」を行った。

1 愛知・名古屋への教採・就活バス支援

平成 25 年 7 月 19 日（金）～21 日（日），教員採用検査で新潟県・新潟市と併願が可能な愛知県・名古屋市の教員採用検査受検のためのバス支援を行った。参加者は田中准教授（就職厚生委員）と事務職員 1 名を加えた 15 名。支援実施は 3 年目。

結果は，二次合格者 3 名。昨年度に比べ合格者数は 1 名減となったが，愛知・名古屋の採用試験では不合格等であるが，他自治体で合格を勝ち取ったという者が 6 名という結果であった。参加者からは，「バス支援が愛知県の受験を考えるきっかけとなった」，「資金面で大変助かった」などの感想が寄せられた。



2 教採バスツアーin 東京

平成 25 年 7 月 13 日（土）～15 日（月），昨年度に引き続き，関東方面の教員採用検査日程に合わせたバス支援を行った。参加者は参加者は岡田准教授（就職厚生委員）と事務職員 1 名を加えた 37 名。結果は，二次合格者 8 名。昨年度に比べ 3 名増となった。

参加者からは，「併願するにも費用がかかるため，バス支援があったので助かった」，「手間を省き，試験に集中できた」などの感想が寄せられた。



東京や愛知の採用試験では不合格だったが、他の自治体で合格を勝ち取ったという者が9名おり、これらのバス支援は、教員を目指す学生に受験機会を増やすきっかけと安心感を与え、学生のもつ本来の力を発揮させることに寄与できたと考えられる。今後も、教員を目指す多くの学生が教職への夢を叶えられるよう、このような支援を積極的に実施していきたい。

3 東京学校見学バスツアー参加支援

東京都教育委員会が主催する「東京の学校見学バスツアー」参加のための支援（交通費補助）を行った。参加者は7名（1年次生：2名，2年次生：2名，3年次生：3名）。

参加した学生からは「教育の現場を見る貴重な経験・機会になった」、「現役の先生に直接質問でき、とても役に立った」、「交通費の補助をしていただいたおかげで参加しやすかった」などの感想が寄せられ、東京の学校現場を肌で感じる事ができたようである。

また、視野を広げるためにも後輩に参加をすすめたいとの声に参加者から多く聞かれ、来年度も引き続きの支援を予定している。

3.8 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページに就職情報ページを作成しています。

教員や公務員，一般企業への就職を希望する学生向けに，教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘訣など，教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページ URL :

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo and name in both Japanese and English. A search bar is located in the top right. Below the header is a navigation bar with icons for Home, Faculty of Education, Faculty of Education Research, Faculty of Education Alumni Association, Faculty of Education Specialized Courses, Faculty of Education Schools, and Faculty of Education Entrance Examinations. The main content area is titled '就職情報' (Job Information) and includes a '就職実績' (Job Performance) section with links to graduate employment status, industry-specific career paths, and main employment destinations. The '就職にむけて' (Towards Employment) section lists resources for faculty recruitment, becoming a faculty member, and employment for general companies and public servants. The '就職体験記' (Job Experience Stories) section features a list of experience stories from 2010 to 2013. The '教員採用検査(面接)内容調査' (Teacher Recruitment Exam Interview Content Survey) section provides data for the years Heisei 25, 24, and 23. The '就職支援活動' (Job Support Activities) section lists various support programs and events, including special lectures, support programs for recruitment exams, and a recent survey of the latest trends and strategies for recruitment exams. The right sidebar contains a yellow box for disaster response, a section for the Shinozaki Library, and information about the university's 60th anniversary and the Faculty of Education's internal affairs.

3.9 教職サポートルーム

平成25年10月1日(木)、教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置した。

教職を目指す学生が自由に使用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースを確保した。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制を構築した。



教職サポートルーム (101 講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

4. 平成 25 年度 学部 FD

第 1 回

日時 2013 年 5 月 30 日 (木) 12 時 55 分から
会場 105 講義室
内容 「地域史研究の教材化と歴史教育の問題点」
講師 麓 慎一

第 2 回

日時 2013 年 7 月 11 日 (木) 13 時 30 分から
会場 107 講義室
内容 「基礎力を養うための初年次教育」
講師 足立幸子、中村和吉

第 3 回

日時 9 月 12 日 14 時から
場所 大会議室
内容 平成 26 年度科学研究費助成事業応募について

第 4 回

日時 2013 年 9 月 27 日 (木) 15 時 00 分から
会場 105 講義室
内容 「教員養成の世界的な取組動向と日本における教員養成の現状と課題」
講師 小柳和喜雄 (奈良教育大学大学院教育学研究科)

第 5 回

日時 10 月 10 日 (金) 15 時 30 分から
場所 大会議室
内容 「学生のローテク不足を刺激する授業の試み」
講師 飯島 淳彦

第 6 回

日時 11 月 7 日 (木) 15 時 30 分から
場所 大会議室
内容 「教員養成政策の動向と教育学研究科の将来」
講師 岡野 勉

第 7 回

日時 11 月 28 日 13 時 30 分から
場所 大会議室
内容 学部連続セミナー
講師 渡邊道之「地震波と数学」
岸本 功「ディリクレ膜と超弦の場の理論」

第 8 回

日時 12 月 20 日 (木) 15 時から
場所 教育学部 105 講義室
内容 「愛知教育大学における教員養成」
講師 松田正久 (愛知教育大学学長)

5. 地域貢献

5.1 平成25年度 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の概要

1 平成25年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」(以下「12年研修」と称する)は、平成25年度で10年目を迎えた。

「12年研修」の日程と受講者・指導者等

平成25年度の「12年研修」の活動日程は下表のとおりである。

日程	研修内容	場所等
6月6日	センター・学部の事前打合せ	教育学部
8月2日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月9日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月23日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～11月	受講者毎の「校内授業研修」	受講者の各学校
10月～12月	「研修のまとめ」	代表者の学校等

6月の事前打合会で、新潟市立総合教育センター(新潟市教育委員会を含む)指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導

研修」は、3日間にわたって実施され、各受講者の授業課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案検討、模擬授業等に取り組んだ。それを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。

また、10月から1月までの期間に、グループ毎に「研修のまとめ」を実施した。

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。(括弧内は、昨年実績)

教科名	受講者数	グループ数	指導主事等数	学部教員数
国語	11 (13)	3 (4)	3	3 (4)
社会	3 (4)	1 (1)	1	2 (2)
算数・数学	12 (11)	3 (3)	3	3 (3)
生活	2 (2)	1 (1)	1	1 (1)
理科	6 (6)	2 (2)	2	2 (2)
英語	1 (4)	1 (1)	1	2 (2)
音楽	7 (3)	1 (1)	2	2 (2)
図工・美術	0 (1)	0 (1)	0	0 (4)
技術	2 (2)	1 (1)	1	1 (1)
家庭	3 (0)	1 (0)	1	1 (0)
保健体育	7 (4)	2 (1)	2	3 (3)
特別支援	4 (7)	1 (2)	1	2 (2)
合計	58 (57)	17 (18)	17	22 (26)

11教科等に57名の受講者があり、小中合同3～4名程度のグループを編成し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制を取っている。

社会、英語、保健体育、特別支援のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もあった。これらの教科では常時複数名が参加し、受講者の研修内容に応じて、指導・助言を行った。

12年研の受講者数は58名であり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導が行き届くようになってきている。

2 「12年研修」の新たな取組に向けて ～ 学部「養成」と現職「研修」の連携等 ～

3年前から新たな取組として、教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。9月から12月に実施される代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に、学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会を設けた。教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようになった。平成25年度は、学部・院生計178名の参加があった。

5.2 市民・教員を対象とした公開講座

新潟大学新潟駅南キャンパス(通称:ときめいと)等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、毎年公開講座を実施しており、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

大人のための合唱講座、運動指導者フォーラムなど、本学部の特色を生かした題目は、多数の市民から好評を得ている。

以下は今年度に教育学部が開設した講座である。

公開講座一覧

講 座 名	
一 般 教 養 講 座	大人のための合唱講座～世界の名曲を原語で歌ってみませんか～
	ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	運動指導者フォーラム 遊ぶ力は生きる力 Part2 - ポスト・ゴールデンエイジを中心に -
	楽しみながら上達する卓球教室

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・新潟県教育委員会との教育懇談会（連携推進協議会）

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、平成25年9月6日「平成25年度新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会」を開催した。

連携の在り方や今後の課題（①教員採用検査実施状況、②学生の教員採用検査受検動向、③現職教員の資質・能力の向上にかかる連携方策、④現職教員を大学院に派遣するための新たな方策、⑤教員養成にかかる諸課題など）について、活発な意見交換が行われた後、今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことが確認された。

・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成26年1月24日、新潟市教育委員会と6回目となる教育懇談会を開催した。

平成25年12月に文部科学省が公表した「ミッションの再定義」に係る、学部内での検討状況について説明があった後、教職大学院設置検討に係る諸課題や新潟市教育委員会が望む教員像、現職教員研修の在り方などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内すべての小中学校及び特別支援学校（小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校）に学習支援（自然教室、水泳教室、補充学習、部活動指導、実験、工作教室など）のためのボランティアを41人（延べ111人）派遣した。

また、見附市の「学力向上推進事業」に係る学習支援及び校内研修指導等が行われた。

・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小中学校2校、中学校2校）」へ10人、「三条市科学フェスティバル」へ17人、「中学校音楽祭」へ3人、「放課後子ども教室」へ3人を派遣した。

また、三条市教育委員会と6回目となる連携協議会（H26.2.14）を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」の募集を行った。市内小学校5校、中学校1校に8人（延べ103人）、市教育委員会の事業（小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に1人（延べ3人）のボランティアの派遣を行った。

5.4 平成25年度 新潟大学免許法認定公開講座実施状況

講座名	音楽文化論	キャリア教育特論	社会科教育特論	理科教育学特論
講師名	横坂 康彦 (教育学部教授)	松井 賢二 (教育学部教授)	伊賀 光屋 (教育学部教授) 富田 健之 (教育学部教授) 釜本 健司 (教育学部准教授)	興治 文子 (教育学部准教授) 川勝 博 (名城大学教授)
受付期間	平成25年6月24日～平成25年7月12日			
実施日程	8月 2日 8月 3日 8月 4日 8月 5日	8月 7日 8月 8日 8月28日 8月29日	8月18日 8月19日 8月20日 8月21日	8月24日 8月25日 9月 7日 9月 8日
回数・時間数	4回・30時間			
募集人員	15人	15人	15人	15人
受講者数	6人	2人	4人	4人
単位修得者	6人	2人	4人	4人

5.5 委員就任状況

◀主な委員就任状況▶

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県国土利用計画審議会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県キャリア教育推進会議』
- 『地域に根ざすキャリア教育推進会議』
- 『新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査研究事業スーパーバイザー』
- 『特別支援学校就労支援検討委員会委員』
- 『新潟県名勝調査指導委員会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『新潟県教育職員免許状検定協議会委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市景観アドバイザー』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市西区自治協議会委員』
- 『第4期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『「NIIGATA オフィス・アート・ストリート」実行委員』
- 『新潟市いじめ問題等委員会委員』
- 『新潟市人権教育・啓発推進懇談会委員』
- 『(仮称)障がいがある人もない人も一人一人が大切にされいかなされる新潟市づくり
条例検討会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

三条市教育委員会

『三条市（仮称）第一中学校区統合小学校校名等制定委員会委員』

燕市教育委員会

『ICT活用普及促進協議会委員』

見附市教育委員会

『みつけコミュニティ・スクール調査研究会議委員』

糸魚川市教育委員会

『小滝川硬玉産地保存整備計画策定委員会委員』

文部科学省

『科学技術・学術審議会専門委員』

『高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究審査委員会委員』

上越教育大学

『上越教育大学 CST 養成事業実施委員会委員』

社会福祉法人 輝風会

『理事』『評議員』

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会

『新潟県高齢者大学運営委員会委員』

社会福祉法人 新潟地区手をつなぐ育成会

『理事』

財団法人 會津八一記念館

『評議員』

財団法人 健康・体力づくり事業財団

『日本公衆衛生学会助成事業に係る委員』

新潟市芸術文化振興財団

『理事』

全国健康保険協会新潟支部

『健康づくり推進協議会委員』

西日本高速道路株式会社

『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

2013年度 国際交流時事業

北京師範大学珠海分校・北京聯合大学訪問交流事業について

本事業は、学習社会ネットワーク課程の選択科目「比較制度論」2単位、「比較文化論」2単位、「多文化共生実習」2単位で構成された講義・演習である。内容は、以下4点で構成されている。①日本人のライフスタイルや新潟の伝統的文化・新潟大学の学生生活などを北京師範大学学生に紹介し、質問を受ける。また師範大学学生も中国人の日本理解や中国（広東省）の文化について紹介し、新潟大学学生から質問を受ける。②北京師範大学珠海分校附属南澳実験小学校で新潟伝統的な遊びや芸能を紹介する授業を展開し、それをもとに附属実験小学校の教員と議論する。③北京聯合大学国際交流学院を訪問し、国際交流学院の紹介およびそこに留学している学生の報告を聞く。④北京市および広州市の文化・教育施設を視察し、報告書を作成する。

4月に参加学生を決定し、学生は5月から担当グループに別れ10月まで準備を行う。5～6月の2ヶ月かけて報告準備、授業準備をして、7月～9月2ヶ月のリハーサル期間。授業担当者は9月～10月が附属新潟小学校での指導および先行授業期間とし、それぞれ学生リーダーのもと準備実習を展開する。通訳・翻訳は交換留学制度により留学した学生が担当する。

2013年度は11月21日から24日まで北京師範大学珠海校、北京師範大学附属南澳実験小学校訪問・交流、25日から27日まで北京聯合大学訪問を行った。視察先はマカオと北京市内であった。視察研修では、学生を希望グループに分け、学グループごとの訪問となった。

参加学生数は23名、引率教員は8名である。学生交流報告テーマは、日本人の伝統的な儀式（端午の節句など）中国側は日本人の妖怪文化であり、授業は山形の伝統的芸能と「折り紙の紹介と実践」であった。学生交流会の参加者は師範大学の学生が300人程度であり、討論はかなり深い内容になっていった。また附属学校の授業では、学生たちの子どもたちに対する態度が評価された。附属新潟小学校の指導がよく現れた実践であったといえる。

北京聯合大学訪問では、北京聯合大学元学長張妙弟先生から北京の伝統的食文化の講義をしていただいた。学生は大変興味深く聞いていた。このほかに、留学中の新潟大学学生による北京での留學生活の報告、および楊学院長による北京聯合大学国際交流学院の紹介が行われた。

以上詳しい内容は「2013年度 学習社会ネットワーク課程国際交流事業報告書」を参照してほしい。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	小久保 美子	米国	IRA定期大会に参加	2013/4/17	2013/4/25	科研費基盤研究（C）
教授	五十嵐 久人	シンガポール	アジア大学スポーツ連盟（AUSF）理事会に出席	2013/5/16	2013/5/20	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：シンガポール大学スポーツ連盟
准教授	世取山 洋介	韓国	第1回韓国教育法フォーラムでの報告	2013/5/18	2013/5/22	科研費基盤研究（C）
准教授	興治 文子	米国	デジタル書籍の普及および教育現場での利活用状況の視察	2013/5/27	2013/6/2	基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	スウェーデン	学長フォーラム（FISU Rector's Forum2013）に出席	2013/6/9	2013/6/15	日本オリンピック委員会
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校での出張講義ならびに永福県の小学校視察	2013/6/13	2013/6/18	学長裁量経費
教授	向山 恭一	中国	北京師範大学珠海分校での出張講義ならびに永福県の小学校視察	2013/6/13	2013/6/18	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校での出張講義ならびに永福県の小学校視察	2013/6/13	2013/6/18	学長裁量経費
准教授	中島 伸子	中国	北京師範大学珠海分校での出張講義ならびに永福県の小学校視察	2013/6/13	2013/6/18	学長裁量経費
教授	五十嵐 久人	ロシア	夏季ユニバーシアード2013年カザン大会統括運営、理事会、総会に出席	2013/6/27	2013/7/20	渡航費：国際大学スポーツ連盟（FISU） 滞在費：ロシア大学スポーツ連盟
教授	清水 研作	ドイツ	パッサウ音楽祭参加（自作曲作品の初演）及び研究打合せ	2013/7/3	2013/7/10	基盤研究経費
准教授	下保 敏和	スペイン	第9回ヨーロッパ精密農業会議に出席	2013/7/7	2013/7/13	科研費基盤研究（C）
准教授	佐藤 亮一	米国	2013IEEEアンテナ・伝搬シンポジウムで研究成果の発表及び最新技術の動向調査（資料収集）	2013/7/7	2013/7/13	科研費基盤研究（C）
准教授	佐藤 亮一	オーストラリア	国際会議で研究成果の発表及び最新技術の動向調査（資料収集）	2013/7/19	2013/7/28	科研費基盤研究（C）
准教授	石垣 健二	ギリシャ	第23回世界哲学会議への出席及び資料収集	2013/8/3	2013/8/10	科研費基盤研究（B）
准教授	興治 文子	チェコ共和国	物理教育国際会議2013に出席	2013/8/4	2013/8/11	科研費（若手B）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	堀内 隆行	南アフリカ	20世紀前半期南アフリカのカラーダに関する資料調査	2013/8/17	2013/8/27	科研費（若手B）
准教授	足立 幸子	インドネシア	学校図書館司書国際会議2013（IASL）参加・発表	2013/8/23	2013/8/31	科研費基盤研究（C）
准教授	永吉 秀司	ドイツ・チェコ	ドイツ・チェコスロヴァキア（日本美術院所属作家による企画研修旅行）	2013/9/4	2013/9/16	本人負担
准教授	前田 洋介	連合王国	地域コミュニティに関する研究打合せ及び調査	2013/9/4	2013/9/19	科研費（若手B）
准教授	中島 伸子	スイス	第16回ヨーロッパ発達心理学会に参加	2013/9/4	2013/9/9	科研費基盤研究（C）
准教授	佐藤 亮一	台湾	2013アジア太平洋電波科学会議に出席	2013/9/5	2013/9/8	中期計画達成推進費
教授	麓 慎一	連合王国	科学研究費補助金基盤研究B（海外）のための調査と史料収集	2013/9/7	2013/9/16	科研費基盤研究（B）
教授	鈴木 賢治	オーストラリア	第7回中性子・シンクロトロン放射光による応力評価の国際会議参加のため	2013/9/8	2013/9/11	科研費（挑戦的萌芽），教育経費
教授	土佐 幸子	米国	連邦教育省主催理数学パートナー事業会議出席及び授業研究	2013/9/9	2013/9/23	学長裁量経費
教授	大浦 容子	トルコ共和国	トルコの死傷事件被害者学生についての情報収集	2013/9/11	2013/9/14	学系管理経費，一般管理費
教授	相庭 和彦	トルコ共和国	トルコの死傷事件被害者学生についての情報収集	2013/9/11	2013/9/14	学系管理経費，一般管理費
准教授	雲尾 周	トルコ共和国	トルコの死傷事件被害者学生についての情報収集	2013/9/11	2013/9/17	学系管理経費，一般管理費
准教授	山口 智子	スペイン	第20回国際栄養学会（20th ICN）への出席	2013/9/12	2013/9/22	科研費（若手B）
准教授	田中 咲子	ギリシャ	科研費「古拙期ギリシアのアゴーン文化複合体」に関わる調査	2013/9/13	2013/9/20	科研費基盤研究（C）
教授	高木 幸子	トルコ共和国	トルコの死傷事件被害者学生についての情報収集	2013/9/13	2013/9/20	学系管理経費，一般管理費
准教授	有川 宏幸	アイスランド	アイスランド大学他の視察	2013/9/14	2013/9/21	科研費基盤研究（B）
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B（海外）のための調査と史料収集	2013/9/21	2013/10/3	科研費基盤研究（B）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	横坂 康彦	米国	西洋音楽史と音楽マネジメントに関する施設見学と教材収集及びPresbyterian Hymnal2013のワークショップに出席	2013/10/15	2013/10/21	基盤教育経費, 基盤研究経費
准教授	中村 和吉	台湾	第40回アジア新素材シンポジウムに参加	2013/10/22	2013/10/25	本人負担
准教授	堀 竜一	ドイツ	第8回国際芥川龍之介学会ドイツ大会での研究発表及びワールドワーク	2013/10/30	2013/11/5	基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	シンガポール	アジア大学スポーツ連盟(AUSF)理事会出席	2013/11/1	2013/11/6	渡航費: 日本オリンピック委員会 滞在費: シンガポール大学スポーツ連盟
教授	高橋 桂子	米国	NCFR学会出席・プレゼン及びDr. Fongと研究打合せ	2013/11/5	2013/11/13	厚労科研
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟(FISU)理事会出席	2013/11/6	2013/11/12	国際大学スポーツ連盟
教授	麓 慎一	中国	「東アジアにおける水産業の形成と変容」(科学研究費補助金)の研究	2013/11/19	2013/11/24	科研費(挑戦的萌芽)
教授	向山 恭一	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/27	学長裁量経費
教授	伊野 義博	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/25	学長裁量経費
教授	相庭 和彦	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/27	学長裁量経費
准教授	中島 伸子	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/27	学長裁量経費
准教授	杉澤 武俊	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/27	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2013/11/21	2013/11/27	学長裁量経費
教授	丹治 嘉彦	ドイツ	「地域美術論」/「地域芸術研究」に伴う学生引率指導	2013/11/21	2013/11/29	基盤教育経費, 基盤研究経費
准教授	田中 咲子	ドイツ	「地域芸術研究/地域美術論」引率指導	2013/11/21	2013/11/29	基盤教育経費, 基盤研究経費
准教授	小野 映介	ジンバブエ共和国	ジンバブエにおける自然環境調査	2013/11/23	2013/12/1	科研費基盤研究(A)
准教授	足立 幸子	米国	リテラシー研究学会第63回年次大会に参加	2013/12/3	2013/12/9	科研費基盤研究(C)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	イタリア	国際大学スポーツ連盟 (FISU) 理事会出席及び第26回冬季ユニバーシアード運営統括	2013/12/4	2013/12/23	国際大学スポーツ連盟 冬季ユニバーシアード運営 統括
准教授	工藤 起来	ブラジル	アシナガバチ類の調査・採集及び研究打合せ	2013/12/16	2014/1/1	科研費基盤研究 (C)
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究	2013/12/20	2013/12/29	本人負担
准教授	世取山 洋介	スイス	国連子どもの権利委員会第65会期の傍聴と資料収集	2014/1/26	2014/1/31	科研費基盤研究 (B)
教授	八坂 剛史	スイス	国際バレーボール連盟 コーチ委員会会議	2014/1/27	2014/2/2	国際バレーボール連盟
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B (海外) のための調査と史料収集	2014/2/11	2014/2/19	科研費基盤研究 (B)
准教授	雲尾 周	台湾	比較文化論・多文化共生実習のための現地視察	2014/2/15	2014/2/19	基盤教育経費
教授	相庭 和彦	台湾	比較文化論・多文化共生実習のための現地視察	2014/2/15	2014/2/18	基盤教育経費
准教授	工藤 起来	インドネシア	社会性ハチ類についての研究打合せ及び標本観察	2014/2/16	2014/2/22	基盤研究経費, 研究活動等支援経費, 若手教員特別支援経費
准教授	田中 咲子	オーストリア	学会で発表	2014/2/25	2014/3/4	科研費基盤研究 (A)
教授	五十嵐 久人	韓国	2015年夏季ユニバーシアード開催都市Inspection Visitのため	2014/3/10	2014/3/14	国際大学スポーツ連盟

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「学びをつなぐ力を高める授業 - 1年次研究-」の下で、指定研究授業（19回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から延べ約2,000名の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要第71集 学びをつなぐ力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（Fねっと+）」（年4回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生16名、5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生77名、9月9日～13日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生33名 6月3日～14日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、大学院生、別科生35名 10月28日～11月8日）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

a. 小中9か年を見通した教育活動

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を図る。

b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
- ・展覧会での特別支援学校生徒作品の展示。

c. 異文化交流活動

- ・平成25年5月28日に、新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大学珠海分校及び南奥実験学校から副学長をはじめ、計6名の職員が来校。学習参観と教育協議会を開催。複式教育が協議の中心となった。
- ・平成26年2月14日に、北京師範大学珠海分校から学長、副学長をはじめ、計4名の職員が来校。学習参観と教育協議会を開催した。
- ・平成26年3月26日～29日の日程で、校長をはじめ、当校教職員5名及び第5学年児童とその保護者が、交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学を訪問。教職員の教育フォーラムを開催し、算数教育の協議を行った。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・道徳や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。
- ・学校保健委員会において、新潟大学医歯学総合病院・高田俊範特任教授より「呼吸のしくみと子どもの病気」の演題で講演いただいた。
- ・児童会保健委員会と連携して、感染予防の啓発活動を行った。
- ・体育や特別活動等の時間を利用して、養護教諭による授業を実施した。

④ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会など各種大会入賞多数
- ・第44回ジュニア展，第10回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール最優秀賞受賞
- ・第59回青少年読書感想文コンクール学校図書館協議会賞，第63回全国小・中学校作文コンクール優秀賞受賞
- ・いきいきわくわく科学賞2014新潟県教育長賞受賞
- ・第49回新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数
- ・第23回全国バレーコンクール第1位，第17回ザ・バレーコン名古屋第1位，ユースアメリカグランプリ2014^レリコンパティビ^ブ部門第1位，第17回NBA全国バレーコンクール文部科学大臣賞，第14回AJBU児童部門第1位受賞

⑤ その他

- ・当校教員の学部授業への参加：5名6回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：9名40回
- ・教員研修の受入：初任者研修2回，新採用養護教諭研修1回
- ・視察受け入れ：18回（東京2，鳥取2，千葉3，福島1，徳島1，京都2，中国1，国立教育政策研究所2，新潟4）※11回増

(2) 研究会，講演会の開催

① 平成25年度附属新潟小学校中間検討会

- a. 日 時 2013年9月25日（水）
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業 ―1年次研究―」
- d. 内 容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- e. 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約80名

② 平成25年度初等教育研究会

- a. 日 時 2014年2月6日（木）・7日（金）
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業 ―1年次研究―」
- d. 内 容 CCT・公開授業・全体会・シェアリングタイム・学級力フォーラム・講演
講演：国立教育政策研究所名誉所員/日本体育大学児童スポーツ教育学部教授 角屋 重樹
演題：「これからの教育とすべ」
講演：文部科学省初等中等教育局 視学官・教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所研究開発部教育課程研究センター 杉田 洋
演題：「今こそ全校体制で学級経営を！」
- e. 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,500名（延べ約2,000人）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 第71集 学びをつなぐ力を高める授業 - 1年次研究-』(年1回発行)
- b. 『授業の研究(Fねっと+)』(第186号, 第187号, 第188号, 第189号:年4回発行)
毎号の特集「新しい学びを拓く」「よりよい生き方をつくる学び」「『対話』で広がる子どもの学び」「学びをつなぐ子ども」
年間テーマ「学びをつなぐ力を高める授業I」

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・金 洋輔『みんなが主役! わくわくファシリテーション授業』, 2013年12月(新潟日報社)
- ・菅原 香代「合意形成のプロセスに言語活動を適切に位置付けた学級会の授業づくり」, 『初等教育資料』, 2013年8月(文部科学省初等教育局教育課程課)
- ・菅原 香代「個の願いも叶えようとする子ども」, 『道徳と特別活動』, 2014年2月(文溪堂)
- ・菅原 香代「みんなという視点をもって話し合い, 集団遊びをつくり出す子ども」, 2013年8月(中部地区特別活動研究協議大会名古屋大会)
- ・山田 耕世「数学的知識に関する問いと見通しの研究」, 2013年8月(第95回全国算数・数学教育研究山梨大会)
- ・片山 敏郎「探究活動におけるタブレット端末の活用に関する研究」, 『日本デジタル教科書学会大阪大会要項集』, 2013年9月(日本デジタル教科書学会)
- ・片山 敏郎「教科書は読み解く資料から, 学習ツールへと変わる!」, 『授業力&学級統率力』, 2013年9月(明治図書)
- ・片山 敏郎「学習者用デジタル教科書に期待すること ~現場目線・子ども目線の導入を!!」, 『学習情報研究』, 2013年11月(学習ソフトウェア情報研究センター)
- ・片山 敏郎「“デジタル”を学級経営の味方にする使い方ヒント」, 『授業力&学級統率力』, 2014年1月(明治図書)
- ・片山 敏郎「情報端末導入についての教員の意識と現場での活用事例」, 『2014 総合大会講演論文集』, 2014年3月(電子情報通信学会)
- ・石見 丈昌「12音技法を用いた音楽科授業の試み~ヴェーベルン「子どものための小品」を用いて」, 2013年8月(日本音楽教育実践学会発表)
- ・石見 丈昌「私のお役立ちソフト」, 『教育音楽5月号』, 2013年4月(音楽之友社)
- ・石見 丈昌「体で感じる鑑賞授業」, 『教育音楽11月号』, 2013年10月(音楽之友社)
- ・岡田 崇宏「式からきまりを見いだす子どもの育成」, 2013年8月(第95回全国算数・数学教育研究山梨大会)
- ・岡田 崇宏「ひき算(2) 友達のやり方のよさを見付けよう」共著, 『考える楽しさ実感! 思考力・表現力を高める授業&板書アイデア』, 2014年2月(明治図書)

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

a. 実践研究「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」の推進

ア 研究の内容

当校では、平成19年度から、生徒が無意識に行っていた思考法を7つ抽出し、「思考スキル」と名付け、主に課題解決の過程で活用させ、思考力の育成を図ってきた。生徒は自らの思考過程や思考方法をメタ認知しやすくなり、よりよく課題を解決できるようになってきた。一方で現状における課題は次の2つである。



- 思考力の育成にとどまらず「人格」を育成していくこと。
- 「思考スキル」の使用について客観的に読み取る方法、評価する方法を研究していくこと。

これらのことを踏まえ、課題解決過程で、生徒に「思考スキル」の活用を促すことによって、思考の広がり深まりを自覚させるとともに、自己の変容や学びを振り返らせることによって、生徒が「学ぶ喜び」を実感・納得していく授業を実践していくこととした。

イ 研究の実際

複数ある「思考スキル」を基に、思考の操作を「比べる」「関係付ける」と大別し、主に「教材構成」「発問」「教材・教具」「活動の組織」を工夫することで思考を促し、「学ぶ喜び」につながる課題解決の授業を実践した。また、全教科で、単元・題材の終了時に学習の振り返りを実施した。

ウ 成果と課題

個々の生徒は、状況に応じて自分なりに「比べ」「関係付け」ながら課題解決していく姿が見られた。また、ワークシートなどで、解決過程の思考を視覚化したことにより、生徒自身が、自己評価し、その有効性を実感・納得できた。

今後は、仲間との相互評価、教師による評価とも関係付けて、「思考スキル」の活用と「学ぶ喜び」の相関についての評価の妥当性について検討していく。また、道徳や特別活動などにおいても、生徒の学ぶ喜び、成長の実感・納得に「思考スキル」がどのように寄与しているのかを明らかにしながら、授業改善を進めていきたい。

② 学部と連動した活動

a. 学部教員および学生との共同研究

「教師としての成長を授業実践力の視点から把握する実証的方法に関する研究」（家庭科）

b. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、11名の学部教員から指導を受けた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、9名の学部教員から指導を受けた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、7名の学部教員から指導を受けるとともに、4名の学部教員を講師として講演を実施した。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

11月28日（木）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日，受入人数

- | | | |
|------------|--------------------|--------------|
| a. 春期教育実習 | 6月 3日（月）～14日（金） | 19人（うち母校実習2） |
| b. 2年次観察実習 | 9月 9日（月）～13日（金） | 103人 |
| c. 秋期教育実習 | 10月28日（月）～11月8日（金） | 16人（うち人文学部1） |
| d. 1年次入門実習 | 年間3回合計3日間 | 12人 |

② 特色ある実習内容

- a. 春期教育実習，秋期教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- b. 2年次観察実習において，同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

- a. 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも，学部教員や行政関係者が参観した。また，すべての教科において，公立校の教員も授業を参観し，協議会にも参加した。
- b. 10月1日（火） 国語，社会，数学，理科，体育，技術・家庭，英語，思考スキルの各教科，取組において，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。
- c. 1月（各教科で日時を設定）国語，数学，理科，音楽，美術，英語，思考スキルの各教科，取組において，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

② 平成25年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

- a. 期 日 10月23日（木）
- b. 内 容 授業公開（国語，社会，数学，理科，保健体育，技術・家庭，英語，思考スキル）
授業協議会
- c. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計419人

③ 平成25年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

a. 期 日 1月24日（金）

b. 内 容 授業公開（国語，数学，理科，音楽，美術，英語，思考スキル），授業協議会，講演会

c. 講演会講師 後藤顕一（国立教育政策研究所），山元隆春（広島大学），山田和美（新潟大学）
松尾憲治（国立教育政策研究所），浅井俊一（新潟市子ども創造センター）
伊野義博（新潟大学），松澤伸二（新潟大学），佐藤佐敏（新潟大学）

d. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計345人

④ その他

a. 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修1）

ア. 期 日 5月28日（火）

イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 中学校29人，特別支援学校5人
下越教育事務所指導主事，当校職員

ウ. 内 容 授業公開（各教科），研究協議，講話

b. 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修3）

ア. 期 日 10月29日（火）

イ. 参加者 下越教育事務所館内初任者 小学校 8人

ウ. 内 容 授業公開（思考スキル），研究協議，講話

c. 学校視察の受け入れ

- ・ 福島市教育委員会 指導主事1人，学校教育指導員11人
- ・ 岐阜県大垣市立興文中学校 校長，教諭1人（3月11日）

(4) 研究報告等

① 研究誌

a. 研究紀要 「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」（1年次）
公開授業案 （10月23日発行）

b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案 （1月24日発行）

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2012年4月～2013年9月>

- ・ 関谷 卓也 原稿執筆 「背理法を用いて課題を解決する授業」
『新訂数学復刻版（昭和53年～55年使用）授業実践記録～第1集～』
啓林館
原稿執筆 「円周角の定理の逆の証明について」
『数学教育10月号』明治図書

7.3 新潟大学教育学部附属特別支援学校

1 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童（授業交流）
- ・小学部5，6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・通級指導連携コーディネーターを活用した児童生徒支援
- ・新潟市内小・中学校主催支援会議への参加 20校延べ75回

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加，2人
- ・学生ボランティアの登録：登録58人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会10人，特別支援教育研究会50人
すなやま祭34人，学部・学級行事16人

【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月2回程度開催

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会(同窓会)の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
(8月24日開催。高等部生徒30，卒業生59，卒業生保護者20，旧職員5人
現職員29人参加)
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定
(2月1日開催。卒業生64人，卒業生保護者29人参加)

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ(すなやまの家を会場に提供)
延べ約2,900人利用
- ・新潟市障がい者の進路を考える会体験会(8月3日)
児童生徒，保護者，各福祉事業所・各校担当職員，当校職員合わせて360人参加

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生29人週1回定期支援，3人不定期支援
- ・教育相談：不定期は多数
- ・研修支援：WISC研修会の実施(8月21日 22人参加)

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・柏崎地区PTA研修会講師 | 大竹 嘉則 副校長，疋田 敦士 |
| ・新潟市立小針小学校校内研修講師 | 大竹 嘉則 副校長 |
| ・新潟市立荻川小学校校内研修講師 | 大竹 嘉則 副校長 |
| ・新潟市学童保育指導員研修会講師 | 水谷 武 教頭 |
| ・西蒲区小中連携研修会講師 | 嶋見真理子，中野 久美 |
| ・新潟市立横越小学校校内研修講師 | 嶋見真理子，中野 久美 |
| ・県立吉田特別支援学校校内研修講師 | 嶋見真理子，中野 久美 |
| ・県立教育センター研修会講師 | 中野 久美 |
| ・にいがた市民大学講座講師 | 廣川 豊士 |

- ・ 県立佐渡特別支援学校公開講座講師 横堀 壮昭
- ・ 県初任者研修講師 富山 千恵
- ・ 新潟市立山田小学校校内研修講師 富張 英樹, 富山 千恵
- ・ 新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 守谷紀代子, 齋藤 文一

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・ 入門教育実習生の受入：1年生14人(5月25日, 8月22日, 9月13日)
- ・ 教育実習生の受入(春期：27人 秋期：38人)
- ・ 養護教諭特別別科1日観察参加実習：39人(11月29日)
- ・ 介護等体験生の受入(年間10回, 合計320人)

【新潟県】

- ・ 教員研修の受入 初任者研修学校参観(6月18日 26人)

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・ 運動会
- ・ 学習発表会, 鑑賞教室
- ・ インターンシップ等(高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定, 中学部：1～3日間)
- ・ 修学旅行(中学部3年生：東京方面, 高等部3年生：関西方面)
- ・ 校内宿泊学習(全学部実施「すなやまの家」に宿泊)
- ・ 親子調理教室(小学部PTA)
- ・ もちつき大会(中学部PTA)
- ・ スキー・そり教室(全学部)
- ・ 卒業生を送る会(全学部)

【PTA保護者関係】

- ・ 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・ 全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区PTA研修会参加
- ・ 新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・ 全附連北信越地区研修会富山大会特別支援学校部会参加
- ・ 附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・ 学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2 研究会, 公開講座の開催

(1) 研究会

- ・ 第29回日本大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会 兼
第35回特別支援教育研究会(10月18, 19日開催)
研究主題：明日をきり拓く「自己実現に向かう力」を育てる支援(第4年次)
～子供が自ら意欲的に課題に挑戦し続ける授業～
参加者数：751名

(2) 公開講座

- ・ 第1回公開講座：4日にわたり4回(6月5日, 19日, 7月3日, 17日)開催
テーマ：「親支援プログラム」
講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授, 参加者数：20人

3 研究報告等

(1) 研究会開催にかかわる実践発表

書籍の発刊「意欲を育む授業 授業づくりの五つの視点」 明治図書

(2) 執筆依頼等に応じての実践発表

- ・ 廣川 豊士「キャリア教育の手引き2」 全国特別支援学校校長会
- ・ 富山 千恵「障害のある子どものための算数・数学(数と計算)」 東洋館出版社

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んできた。その成果により文部科学省から指定延長を許可され、平成27年度まで継続して取り組むこととなった。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間の一貫教育カリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成と保育者の援助の在り方がどうあるべきかについて、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校低学年との「異年齢協働探究型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| a 入門教育実習 | (1年生延べ8名 5月1日、9月25日、10月23日) |
| b 春期教育実習 | (3年生 7名 4年生 1名 6月 3日～14日) |
| c 観察参加実習 | (実習生 なし) |
| d 秋期教育実習 | (実習生 なし) |
| e 留学生の園訪問 | (留学生 5名 1月20日) |

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」も行っている。

- 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- 観客型連携による相互訪問
- 中学生の保育参観、遊びの紹介
- 5歳児の小学1・2年生との合同活動(社会創造科)
- 研究授業・保育の相互参観
- 授業・保育交流

④ 学部との連携

- 教育研究協議会での公開保育・協議会や園内研究保育にかかわり、学部教員からの指導・助言を受ける。
- 校園合同研究にかかわる実態アンケート等の集約・評価における連携

⑤ 北京師範大学南奥実験学校等との交流

北京師範大学珠海分校・南奥実験学校等より、5月29日の校合同教育研究協議会に視察団が訪問。

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（4名 11月26日～27日）

⑦ 楽しい園行事

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 4月：春の交通安全教室
こんにちはの会
お花見散歩 | 11月：秋の家族参加日（昔の遊び）
作品展 |
| 5月：家族参加日（土曜参観） | 12月：親子餅つき大会 |
| 6月：プール開き
親子バス遠足（マリンピア日本海） | 1月：お正月お楽しみ会（カルタ） |
| 7月：七夕会 | 2月：豆まき会
そり遠足（越後丘陵公園） |
| 9月：校合同運動会
秋の交通安全教室 | 3月：ありがとうの会（お別れ会） |
| 10月：悠久山探検遠足 | |

（2）研究会、講演会の開催

① 平成25年度教育研究協議会

ア 開催日 平成25年5月29日（水） 幼・小・中合同教育研究協議会

イ 会場 附属長岡校各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官 笠井 健一 様

演題 「思考力・判断力・表現力を育む言語活動の在り方」

〈講演会② 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 東京大学名誉教授 佐伯 胖 様

演題 「いま、あらためて『学び』を問う—学びを閉ざすものと開くもの—」

※ 講演会①②は、当時開催。参加者が選択して聴取。

⑦ 幼稚園視察等の受入

視察（幼小連携について） 仙台市あきう幼稚園他（10月）

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を4名受け入れ（11月）

⑧ 研究報告等

研究紀要「社会的な知性を培う」第3年次

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度より3年間、文部科学省研究開発指定を受け、24年度研究成果のまとめを1月11日の「研究開発フォーラム」（東京学術総合センター）で発表した。その成果が認められ研究開発指定の3年間の延長となった。これまでの指定を含め、平成25年度の研究開発校は計34件、98校となる。その中で延長指定を認められたのは附属長岡校園のみである。第2次研究の研究開発課題は「社会的な知性」を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発である。研究の概要は幼・小・中12年間の5つの「ステージ」に構成し、各教科と新教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫教育カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを提案することである。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 小・中接続期に焦点を当てたカリキュラム開発と小・中の各教科の指導内容の位置付けの検討を通して、幼・小・中12年間の学びをつなぎ、生かす一貫カリキュラムの会あひつに取り組む。

イ 子ども自らが、主体的に他者との関わりを求め、互恵的にかかわりながら「社会的知性」としての資質・能力を働かせるための「協働型学習」の単元を構成する視点を明確にする。

ウ 「社会創造科」の内容を見直し、異校種間を含めた異学年での授業や地域の人材の活用の仕方など、多様な「協働型学習」の在り方と適切な評価方法を開発する。

これらのことを課題として研究を進め、5月28日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。

* 「社会創造科」の主な取組

- 7月 2日 「川遊びで自然を学ぶ」 栖吉川フェスティバル
- 10月 3日 「愛される歩道へ汗」 学校前歩道の花壇の整備
- 11月 17日 「未来へ育て木も人も」 附属百年の森のあゆみや活動の様子を学ぶ
- 1月 21日 「泳ぐ宝石育てて」 山古志地域の地場産業についての学習が発展

(新設教科「社会創造科」の上記の取組が新聞に掲載された)

② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習①サマースクール（1年生 6名 6月20日～ 6月22日）
入門教育実習②栖吉川フェスティバル
(1年生12名 6月27日)
- b. 観察参加実習（2年生 65名 9月 9日～ 9月13日）
- c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生 24名 6月 3日～ 6月14日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生 24名 10月28日～11月 8日）

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、職員の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

b. 中学校との連携

■「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流

- ・小5年と中1年「持続可能な地域（長岡）を目指して」
- ・小6年と中1年「大手通りのこれからを考えよう」



これからの大手通り



第4ステージでの授業交流

④ 大学・学部との連携

a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践

- ・新潟大学教育学部 松井賢二教授 「キャリア教育」4年1組と4年2組で合同授業。
3月 3日

b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

2名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。

- ・新潟大学教育学部 角谷 聡 准教授 6年1組 国語「本物の漢詩を読んでみよう」
- ・新潟大学教育学部 小久保美子教授 ミニ講座「幼小接続期の教育課題」

c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科の学生から、延べ31回分（学生4名で8回）にわたって体操の指導を受け、成果を12月1日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5、6年生のスノースクール（2月）では、体育科・大橋研究室の学生10名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（75名94%）。

6月10日（月）

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

(6月小学校初任者8名、9月中学校初任者6名)

免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力(国語、算数 教諭2名担当)

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート

錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(国語、社会、図工、算数)

長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。(理科、算数、保健等)

c. 新潟市教育委員会との連携

新潟市養護教諭12年経験者研修会の講師として参加した。(養護教諭)

d. 公立学校との連携

小千谷市立小千谷小学校校内研修会に講師として参加(社会科1名)

長岡市立阪之上小学校校内研修会に講師として参加(生活科1名)

長岡市立千手小学校校内研修会に講師として参加(図画工作科1名)

長岡市立寺泊小学校校内研修会に講師として参加(体育科1名)

柏崎市立日吉小学校校内研修会に講師として参加(理科1名、生活科1名)

見附市学校教育研究協議会に講師として参加(養護教諭部会1名、総合部会1名)

魚沼市教育振興会に講師として参加(図工部会1名)

燕市西蒲原郡小学校教育研究協議会に講師として参加(理科部会1名)

東蒲原郡養護教諭研修会の講師として参加(健康部会1名)

十日町市水沢中学校区研修会の講師として参加(学力向上1名)

公立校教員対象の各教科領域別ミニ講座研修会の講師(各教科領域1～2回講座開催)



工学部での実験見学

⑥ 中国との交流

・北京師範大学珠海分校、南奥実験校訪日8名

・5月27日(月) 歓迎会開催

・5月29日(水) 研究協議会視察

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パッケンパワーボックス」

(食育に関する質問箱)の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

・1年1組 学級活動「食べ物がかせになろう」2/5

・2年1組 学級活動「野菜パワーで元気いっぱい」5/21, 7/20

・2年2組 学級活動「野菜パワーで元気いっぱい」5/29

・6年1組 給食時間「楽しいバイキング」2/20

・6年2組 給食時間「楽しいバイキング」2/21



学級活動で食育の推進

- c. 栄養教諭による講話等
 - ・毎月1回程度 中学生への食育講話
 - ・毎月19日の「食育の日」に食育放送（給食時）
 - ・学級担任への食育資料提供
 - ・小学校、幼稚園の給食試食会での保護者への講話
 - ・教育実習生（別科生）への講話

（2）研究会、講演会等の開催

① 平成25年度初等教育研究協議会事前打合せ

- a. 日時 2013年 5月 8日（水）
- b. 会場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第2次研究 第1年次）
- d. 内容 全体会（研究全体概要の説明） 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成25年度初等教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日時 2013年 5月29日（水）
- b. 会場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第2次研究 第1年次）
- d. 内容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」
 - 講演
 - 東京大学名誉教授 佐伯 胖 氏
 - 演題「いま、あらためて『学び』を問う
～学びを閉ざすものと開くもの～」
 - 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 笠井 健一 氏
 - 演題「思考力・判断力・表現力を育む言語活動の在り方」

- e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等
約 1200名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催 北信越地区総会・実践活動協議会 富山大会

- a. 日時 2013年 9月26日（木）副校園長会（市内巡検，研修会・協議会等）
9月27日（金）教育活動・授業公開，協議会，全体会・総会等
- b. 会場 富山大学人間発達科学部附属学校園（幼稚園、小学校、中学校），
「ANAクラウンプラザホテル富山」
（*副校園長会 瑞龍寺，高岡地域地場産業センター，「ひみのはな」）
- c. テーマ 「附属学校園の今を見つめる～実践と振り返り～」
- d. 内容 保育・授業公開、協議会および全体会・総会，情報交換会・懇親会
- e. 参加者 約300名 *校長，副校長，教諭，PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第2次研究 第1年次』(年1回発行)
- b. 『子どもと授業』(年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名)
 - 第71号 特集「思考力・判断力・表現力の育成と子どもの「学び」を考える
 - 第72号 特集「協働型学習」の推進

② 教員の著書・論文・研究発表等(略)

(4) その他

① 危機管理に対する活動

- a. 不審者侵入対応避難訓練(10年目)
 - 職員の対応訓練と児童の避難訓練
 - (指導・協力:長岡警察署生活安全係)
- b. 緊急電話連絡・メール配信訓練
- c. 防犯用携帯ベル支給(新入児童全員)
- d. 水泳授業監視員の配置
- e. インストラクターによる着衣泳指導



自分の命を守る着衣泳指導

② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

- a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業
「ふぞく百年の森整備作業」、「校園インディアカ大会」

⑤ 学習環境の整備

- a. 普通教室にエアコン設置(リース契約による設備整備, 諸経費は保護者負担による)

7.6 附属長岡中学校

(1) 文部科学省研究開発学校延長指定

平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」を開発している。この研究は、子どもと子ども、子どもと地域の人が共に学びを創り上げる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含めた各教科・領域を通して「持続可能な社会」の形成者をはぐくむことを目指して、第2次研究に入っている。

<社会創造科>

「社会的な知性」を「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」の三つの資質・能力としてとらえ、それを効果的にはぐくむのに必要不可欠な教科として「社会創造科」をカリキュラムに位置付けている。そこでは、校園内の異年齢の児童生徒はもちろん、企業、NPO、行政、地域の専門家の方々と互恵的にかかわりながら、身の回りや地域にある問題や課題について調べ、解決方法を考え、実際に行動し評価する活動を展開している。

(2) ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本校では、「持続可能な社会の在り方」をテーマに、社会創造科において、郷土長岡と大都市東京とを比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を沖縄に広げた同様の追究学習（第2学年）に取り組んでいる。生徒が設定した視点を基に、郷土と他地域とを比較し、地域の実態や課題をとらえ、その解決方法を考えることを通して、テーマに対する認識を深めている。

2 教育研究協議会

(1) 平成25年度教育研究協議会

- ① 期 日 平成25年5月29日（木）
- ② 会 場 附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）
- ③ テーマ 「社会的な知性を培う」（第1年次総括）
- ④ 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業），各教科，領域
講演会・演題 「いま、あらためて『学び』を問う ―学びを閉ざすもの開くもの―」
講師 東京大学名誉教授 佐伯 胖 氏
・演題 「思考力・判断力・表現力を育む言語活動の在り方」
講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 笠井健一氏
- ⑤ 参加者 県内外教員，学生，学部教員，教育委員会指導主事 北京師範大学南奥実験校 等校園全体で，1187人

3 地域教育委員会，大学との連携を図った教員研修への協力，

(1) 市教育委員会が行う教員の指導力向上を目指す取組への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート連成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」や市教育センター主催研修講座に対し、授業公開や講師派遣を行った。

(2) 大学との連携を図った現職教員研修への協力

教員免許更新講習における講座「学びをつなぎ、学びを生かす学習指導」において、大学教員との連携を図り、ゲストスピーカーとして職員を派遣し、実践発表を行った。

8. 外部資金

8.1 科学研究費補助金

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っており、今年度は1件が採択された。

平成 25 年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

(以下のスペースに科学研究費補助金採択一覧のエクセル表を挿入)

平成25年度科学研究費助成事業採択一覧

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
25	基盤研究(B)	麓 慎一	帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について
22	基盤研究(C)	世取山 洋介	日米における新自由主義教育改革の教育法および教育制度論的研究
22	基盤研究(C)	伊藤 克美	厳密くりこみ群によるゲージ論の研究
23	基盤研究(C)	小林 日出至郎	『イリアス』の運動競技における精神性に関する研究
23	基盤研究(C)	石垣 健二	「身体教育(体育)によって育てる間身体性」の解明
23	基盤研究(C)	宮菌 衛	出前授業方式による学生の環境教育実践力育成ー「多国間環境問題解決型授業」を事例に
23	基盤研究(C)	柳沼 宏寿	「映像メディアによる表現」の教育的効果に関する研究〜日豪のシネリテラシーを基に〜
23	基盤研究(C)	足立 幸子	国際標準を反映した教員用読書力評価パッケージの開発
23	基盤研究(C)	釜本 健司	市民性概念の歴史的比較教育的分析に基づく市民性教育内容開発
23	基盤研究(C)	張間 忠人	可換代数学における完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
24	基盤研究(C)	山崎 健	長距離ランニング中の動作変容にかかわるモデルの検討
24	基盤研究(C)	大庭 昌昭	高強度領域における主観的努力度の変化が平泳ぎパフォーマンスに及ぼす影響
24	基盤研究(C)	藤林 紀枝	物理学、化学の概念と連結した火山および火成岩の学習プログラムの基盤づくり
24	基盤研究(C)	本間 伸輔	英語・日本語数量詞句の統語構造、意味・談話的性質、作用域特性に関する理論的研究
24	基盤研究(C)	中島 伸子	老化現象における心身の相互性理解の発達過程
24	基盤研究(C)	高木 幸子	教師としての成長を授業実践力の視点から把握する実証的方法に関する研究
24	基盤研究(C)	小久保 美子	表現重視の読むことの学習方略が及ぼす読解力育成への影響に関する実証的・実践的研究
24	基盤研究(C)	工藤 起来	アシナガバチ亜科における多女王制社会の進化：生態学的視点からの解明
25	基盤研究(C)	佐藤 亮一	レーダボーラリメトリを用いた大地震に伴う津波・洪水時の水位推定と被災住宅の識別
25	基盤研究(C)	高橋 桂子	Gatekeeper概念を組み込んだ行動変容理論による父親の家事参加行動の研究
25	基盤研究(C)	杉澤 武俊	心理学研究における統計的検定手法の見直しと改善
25	基盤研究(C)	神村 栄一	パチンコ遊技嗜癖の類型に応じたモジュール介入付き集団認知行動療法の効果検討
25	基盤研究(C)	岡野 勉	初等数学の教育内容構成に関する実験的・歴史的研究ー分数教授の歴史と構想
25	基盤研究(C)	福田 学	言語活動という観点からみた学級の「荒れ」に関する現象学的研究
25	基盤研究(C)	長谷川 敬三	等質空間上の概複素構造と共形幾何学的構造についての研究
25	基盤研究(C)	下保 敏和	偏光を利用した反射分光分析法の開発
23	若手研究(B)	志賀 隆	博物館標本の種子を用いた絶滅植物集団の復元と標本管理方法の開発
23	若手研究(B)	堀内 隆行	20世紀前半期南アフリカのカラーとブリティッシュ・アイデンティティに関する研究
23	若手研究(B)	渡邊 道之	線形及び非線形ヘルムホルツ型方程式の漸近解析と逆解析
24	若手研究(B)	田中 誠二	占領期日本の学校における感染症対策に関する実証的研究
24	若手研究(B)	山口 智子	米粉食品の調理加工性と食味の向上をもたらす機能水の解明
24	若手研究(B)	山本 啓介	中世後期和歌会関連古記録についての基礎的研究
24	若手研究(B)	一柳 智紀	対話的な相互作用を促す教師・学習者によるリヴォイシングの検討
24	若手研究(B)	古田 和久	社会階層と学校適応に関する国際比較研究
24	若手研究(B)	阿部 好貴	数学的リテラシー育成のためのカリキュラム開発に向けた基礎的研究
24	若手研究(B)	高清水 康博	砂丘を越えて沿岸低地を遡上する巨大津波からの堆積モデル構築
25	若手研究(B)	興治 文子	明治中期の理科筆記が紐解く日本型科学教育の源流と現代への具現化
25	若手研究(B)	前田 洋介	エリア型コミュニティの地理的不均衡発展に関する研究
25	若手研究(B)	岸本 功	超弦の場の理論における数値的手法に基づく古典解の解析
24	挑戦的萌芽研究	加藤 茂夫	英語科教育における事前教材評価に対する階層分析法(AHP)の応用に向けた実践研究
24	挑戦的萌芽研究	鈴木 賢治	測定困難材の内部応力評価への挑戦
25	挑戦的萌芽研究	麓 慎一	東アジアにおける水産業の形成と変容
25	挑戦的萌芽研究	小堀 彩子	教師の概念変化を促す手法を用いたバーンアウト予防プログラムの開発
25	奨励研究	高橋 洋子	食生活の変遷を可視化する試みー職業別電話帳と住宅地図から探る食材調達の変遷の50年史ー

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成25年度における寄附金の主な受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的
村山 敏夫	一般財団法人 上月財団	高次神経機能に基づく運動制御評価法の開発 ～トレーニング時の逸脱動作予防を目指して～ に関する研究助成
鎌田 正喜	公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団	光エネルギーを利用する新規抗マラリア活性化合物の合成研究: 抗マラリア活性種を効率的に発生するジオキソラン誘導体の合成
岡村 浩	権田雷斧顕彰会	新潟県三島郡地方に伝わる良寛ゆかりの文人・権田雷斧の遺墨を調査、研究するためのもの
山口 智子	新潟県総合生活協同組合	教育研究助成

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成25年度における主な受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○ 受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
村山 敏夫	新潟医療生活協同組合	施設利用者の運動データ解析とシステム構築
牛山 幸彦	公益財団法人日本卓球協会	ラケットとラバーの組み合わせ評価方法の検討
高清水 康博	独立行政法人 海洋研究開発機構	Exp.339地中海流出水に支配されたカディス湾ドリフト堆積体の成立と時空変化の解明
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰支援に関する研究

○ 受託事業

事業担当者	委 託 者	事 業 題 目
平成25年度 無し		

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成25年度における主な共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研 究 題 目
山口 智子	加賀工業株式会社	蕎麦麴を使用した料理・菓子等の研究開発
鈴木 賢治	独立行政法人 日本原子力研究開発機構	回折スポット追跡法による溶接材の内部応力に関する研究

(巻末資料)

平成25年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	156	140	51	43

		教育心理学専修					
	教科教育コース	特別支援教育専修	135	548	510	158	139

		国語教育専修					
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
家庭科教育専修							

技術科教育専修							

音楽教育専修							

美術教育専修							

保健体育専修							
推薦入学	40	75	75	40	40		
小 計	220	779	725	249	222		
学習社会ネットワーク課程		45	177	109	48	46	
学習社会ネットワークコース							
生活科学課程		15	71	71	22	15	
生活科学コース							
健康スポーツ科学課程		30	170	145	33	33	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	64	61	27	25	
	造形表現コース	20	83	59	22	19	
	書表現コース	15	42	42	16	16	
	小 計	60	189	162	65	60	
合 計		370	1,386	1,212	417	376	

●平成 25 年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	7(3)	7(3)	6(3)	6(3)
	教育心理学分野		0	0	0	0
	臨床心理学分野		1	1	1	1
	特別支援教育分野		7(1)	6(1)	5(1)	5(1)
	幼児教育分野		1	1	1	1
	教育実践開発コース	10人	6	6	6	6
	小計	20人	22(4)	21(4)	19(4)	19(4)
教科教育	国語教育専修	32人	9(6)	9(6)	8(5)	7(5)
	社会科教育専修		4	4	2	1
	英語教育専修		2	2	2	2
	数学教育専修		2	2	2	2
	理科教育専修		4	4	1	1
	音楽教育専修		6(1)	6(1)	5	5
	美術教育専修		5	5	5	5
	保健体育専修		8	6	4	3
	小計		32人	40(7)	38(7)	29(5)
合計	52人	62(11)	59(11)	48(9)	45(9)	

※()内数字は、外国人留学生で内数

平成26年3月卒業(修了)者の就職内定状況

(1) 教育学部(教育人間科学部含む)

平成26年3月31日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程(学校教育課程)	227	22	15	8	144	38	190	8	134	37	179	100.0	93.1	97.4	94.2
学習社会ネットワーク課程	45	0	6	7	1	31	39	7	1	30	38	100.0	100.0	96.8	97.4
生活科学課程(生活環境科学課程)	12	1	0	3	2	6	11	3	2	5	10	100.0	100.0	83.3	90.9
健康スポーツ科学課程	31	6	1	4	10	10	24	4	9	10	23	100.0	90.0	100.0	95.8
芸術環境創造課程	62	11	6	1	11	33	45	1	10	32	43	100.0	90.9	97.0	95.6
計	377	40	28	23	168	118	309	23	156	114	293	100.0	92.9	96.6	94.8

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	19	2	1	1	13	2	16	1	12	2	15	100.0	92.3	100.0	93.8
教科教育専攻	39	1	3	0	27	8	35	0	24	6	30	—	88.9	75.0	85.7
計	58	3	4	1	40	10	51	1	36	8	45	100.0	90.0	80.0	88.2

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別別科	37	4	3	1	19	10	30	1	17	10	28	100.0	89.5	100.0	93.3

注)平成25年9月卒業(修了)者を含む

教育学部附属学校生徒数

25. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	14
	4歳児学級	1	35	35	24
	5歳児学級	1	35	35	27
新潟小学校		12	35 (3年～6年 40)	460	440
	複式学級	3	16	48	47
長岡小学校		12	35 (3年～6年 40)	460	396
新潟中学校		9	40	360	359
長岡中学校		9	40	360	353
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	16
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	29
合 計		57		1,838	1,723

複式学級は外数

備考

附属新潟小学校及び附属長岡小学校については、平成24年度入学児童の1学級定員が40人から35人になり、学年進行により収容定員は順次改訂されます。